

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	令和2年6月3日提出
【計算期間】	第20期(自 平成31年3月7日至 令和2年3月6日)
【ファンド名】	三井住友・年金プラン30 三井住友・年金プラン50 三井住友・年金プラン70
【発行者名】	三井住友D Sアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 猿田 隆
【本店の所在の場所】	東京都港区愛宕二丁目5番1号
【事務連絡者氏名】	土屋 裕子
【連絡場所】	東京都港区愛宕二丁目5番1号
【電話番号】	03-5405-0784
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

イ 当ファンドは、親投資信託である国内株式マザーファンド（B号）、国内債券マザーファンド（B号）、外国株式マザーファンド（B号）および外国債券マザーファンド（B号）の受益証券への投資を通じて、実質的に内外の株式、債券への分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

以下、上記各親投資信託を総称して、あるいはそれぞれを「マザーファンド」ということがあります。

ロ 各ファンドについて、委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。詳細については、後述の「2 投資方針」をご参照ください。

ハ 委託会社は、受託会社と合意の上、各ファンドにつき、それぞれ金2,000億円を限度として信託金を追加することができます。この限度額は、委託会社、受託会社の合意により変更できます。

ニ 当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

(イ) 当ファンドが該当する商品分類

項目	該当する商品分類	内容
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	内外	目論見書または信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 (収益の源泉)	資産複合	目論見書または信託約款において、株式、債券、不動産投信、その他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

(ロ) 当ファンドが該当する属性区分

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（資産複合（株式、債券）資産配分固定型））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載していません。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は株式および債券であり、ファンドの収益は株式市場、債券市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「資産複合」となります。
決算頻度	年1回	目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	グローバル（日本を含む）	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

投資形態	ファミリーファン ド	目論見書または信託約款において、親投資信託 (ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるもの を除く。)を投資対象として投資するものをい います。
為替ヘッジ	為替ヘッジなし	目論見書または信託約款において、対円での為替 のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは対 円での為替のヘッジを行う旨の記載がないものを いいます。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
		債券
	海外	不動産投信
追加型		その他資産 ()
	内外	資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回	グローバル		
一般		(日本を含む)		
大型株	年2回	日本		
中小型株	年4回	北米	ファミリーファンド	あり
債券	年6回(隔月)	欧州		
一般	年12回(毎月)	アジア		
公債	日々	オセアニア		
社債	その他	中南米	ファンド・オブ・ファンズ	なし
その他債券	()	アフリカ		
クレジット属性 ()		中近東(中東)		
不動産投信		エマージング		
その他資産 (投資信託証券(資 産複合(株式、債 券)資産配分固定 型))				
資産複合 ()				
資産配分固 定型				
資産配分変 更型				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分の「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しています。商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご覧ください。

(2) 【ファンドの沿革】

2000年9月19日	信託契約締結、設定、運用開始。 (設定時の委託会社は住友ライフ・インベストメント株式会社)
2001年9月27日	「SLIバランス・プラン30」、「SLIバランス・プラン50」、「SLIバランス・プラン70」から「住友ライフ・年金プラン30」、「住友ライフ・年金プラン50」、「住友ライフ・年金プラン70」に名称を変更。
2002年12月1日	三井住友アセットマネジメント株式会社が、合併によりファンドの委託会社としての業務を承継。「住友ライフ・年金プラン30」、「住友ライフ・年金プラン50」、「住友ライフ・年金プラン70」から「三井住友・年金プラン30」、「三井住友・年金プラン50」、「三井住友・年金プラン70」に名称を変更。

(3) 【ファンドの仕組み】

イ 当ファンドの関係法人とその役割

(イ) 委託会社 「三井住友D Sアセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書(目論見書)および運用報告書の作成等を行います。

(ロ) 受託会社 「三井住友信託銀行株式会社」

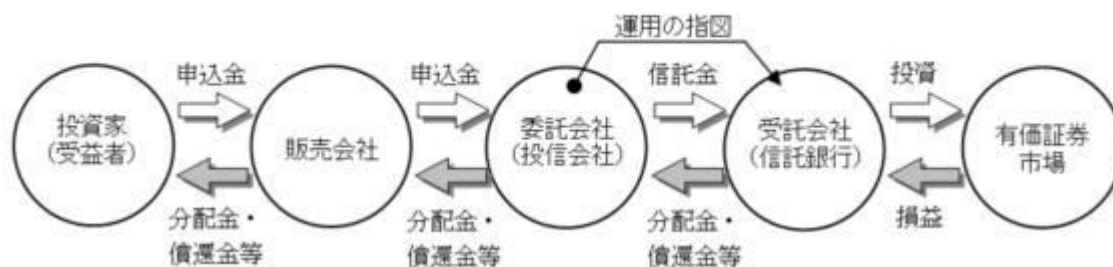
証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

*日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、関係当局の許認可等を前提に2020年7月27日に資産管理サービス信託銀行株式会社およびJTCホールディングス株式会社と合併し、株式会社日本カストディ銀行に商号を変更する予定です。

(ハ) 販売会社

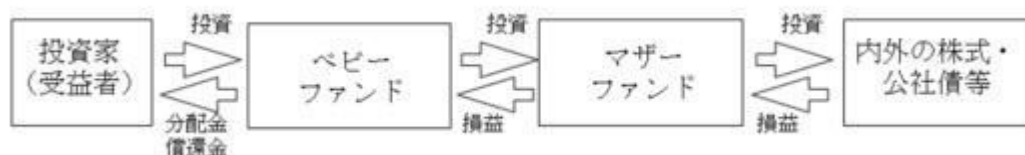
委託会社との間で締結される販売契約(名称の如何を問いません。)に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書(目論見書)の提供、受益者からの一部解約実行請求の受付、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。

運営の仕組み



当ファンドの運用は、「ファミリーファンド方式」で行われます。

「ファミリーファンド方式」とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、受益者の資金をまとめて「ベビーファンド」とし、「ベビーファンド」の資金の全部または一部を「マザーファンド」に投資することにより、実質的な運用は「マザーファンド」において行う仕組みです。



□ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

20億円（2020年3月31日現在）

(ロ) 会社の沿革

1985年7月15日	三生投資顧問株式会社設立
1987年2月20日	証券投資顧問業の登録
1987年6月10日	投資一任契約にかかる業務の認可
1999年1月1日	三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合
1999年2月5日	三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更
2000年1月27日	証券投資信託委託業の認可取得
2002年12月1日	住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更
2013年4月1日	トヨタアセットマネジメント株式会社と合併
2019年4月1日	大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に商号変更

(ハ) 大株主の状況

（2020年3月31日現在）

名称	住所	所有 株式数 (株)	比率 (%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	16,977,897	50.1
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	7,946,406	23.5

三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	5,080,509	15.0
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	3,528,000	10.4
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	337,248	1.0

2【投資方針】

(1)【投資方針】

イ 基本方針

マザーファンドを組み入れることにより、実質的に内外の株式、債券に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 各ファンドの標準的な資産配分および各資産の変動幅は、以下の通りとします。

a. 年金プラン30

	資産配分	変動幅	
		下限	上限
株式	30%	25%	35%
国内株式	20%	12.5%	30%
外国株式	10%	5%	15%
債券および短期金融資産	70%	65%	75%
国内債券	60%	45%	70%
外国債券	10%	5%	15%
短期金融資産	0%	0%	5%

b. 年金プラン50

	資産配分	変動幅	
		下限	上限
株式	50%	45%	55%
国内株式	33%	22.5%	45%
外国株式	17%	10%	25%
債券および短期金融資産	50%	45%	55%
国内債券	40%	25%	50%
外国債券	10%	5%	15%
短期金融資産	0%	0%	5%

c. 年金プラン70

	資産配分	変動幅	
		下限	上限
株式	70%	65%	75%
国内株式	47%	32.5%	60%
外国株式	23%	15%	35%
債券および短期金融資産	30%	25%	35%
国内債券	20%	5%	30%
外国債券	10%	5%	15%
短期金融資産	0%	0%	5%

(ロ) 各ファンドの運用にあたっては、それぞれ以下の比率により委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

	年金プラン 30	年金プラン 50	年金プラン 70

TOPIX(東証株価指数)	20%	33%	47%
NOMURA-BPI(総合)	60%	40%	20%
MSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)	10%	17%	23%
FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	10%	10%	10%

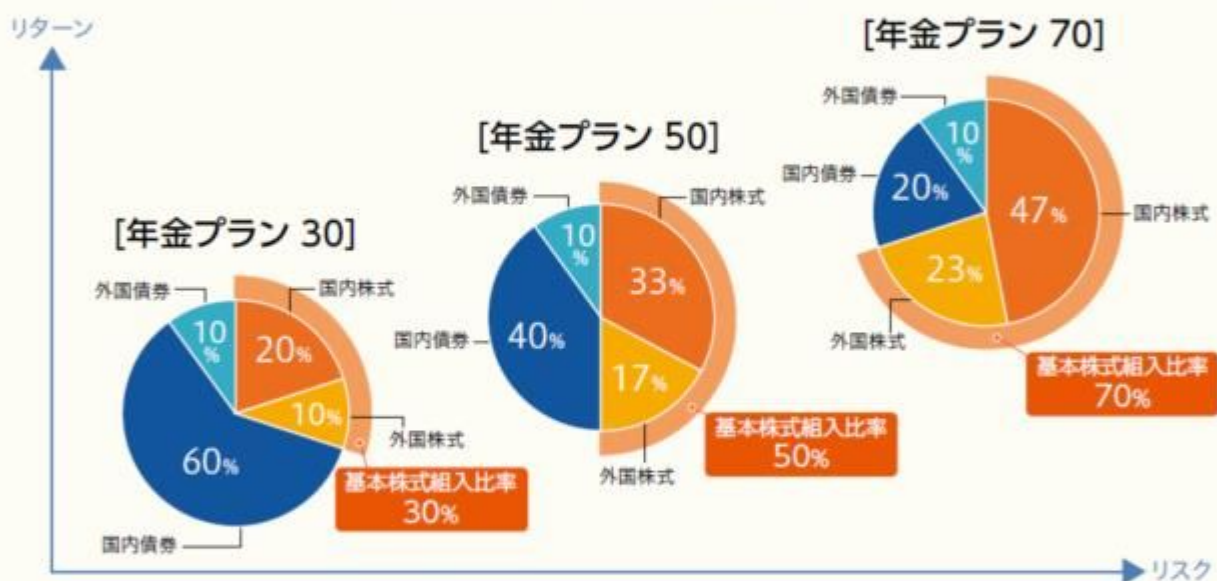
(八) 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないことを基本とします。

ファンドの特色

1 内外の株式・債券に投資する4つのマザーファンドの組入れを通じて、国内株式、国内債券、外国株式および外国債券への分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標とします。

2 各ファンドにつき、標準的な資産配分および各資産の変動幅を定め、その範囲内で運用を行います。

[各ファンドの標準資産配分]



※上図はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

[各資産の配分変動幅]

		年金プラン30	年金プラン50	年金プラン70
株式	25%~35%			
	国内株式	12.5%~30%	22.5%~45%	32.5%~60%
	外国株式	5%~15%	10%~25%	15%~35%
債券および短期金融資産	65%~75%			
	国内債券	45%~70%	25%~50%	5%~30%
	外国債券	5%~15%	5%~15%	5%~15%
	短期金融資産	0%~5%	0%~5%	0%~5%

3 各ファンドにつき、委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

〔各ファンドのベンチマークの資産別合成比率〕

	投資対象資産	年金プラン30	年金プラン50	年金プラン70
TOPIX (東証株価指数)	国内株式	20%	33%	47%
MSCIコクサイインデックス (配当込み、円ベース)	外国株式	10%	17%	23%
NOMURA-BPI(総合)	国内債券	60%	40%	20%
FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	外国債券	10%	10%	10%



TOPIX(東証株価指数)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス、FTSE世界国債インデックスは、それぞれ株式会社東京証券取引所、野村證券株式会社、MSCI Inc.、FTSE Fixed Income LLCが公表している指数で各社の知的財産です。

TOPIX(東証株価指数)、NOMURA-BPI(総合)、MSCIコクサイインデックス、FTSE世界国債インデックスは、国内株式、国内債券、外国株式、外国債券の代表的な指数であり、各ファンドの合成指数を構成するものです。なお、外国株式および外国債券のベンチマークは、前日の指数を当日の対顧客電信売買相場の仲値により委託会社が円換算したものです。

※指数を公表する各社は各ファンドの運用と何ら関係ありません。

4 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないことを基本とします。

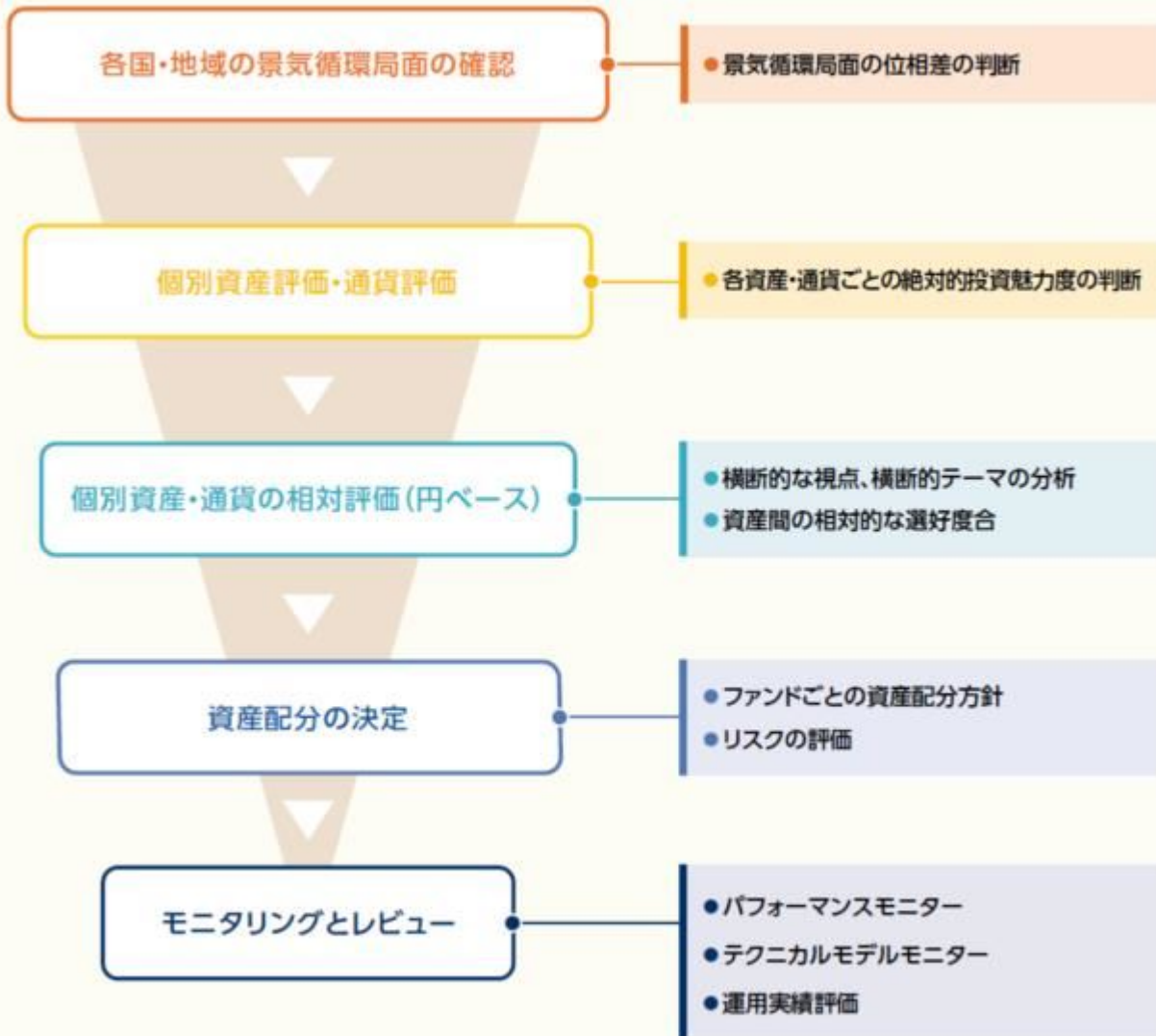
※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドのしくみ

■ファミリーファンド方式を採用し、マザーファンドの組入れを通じて、実際の運用を行います。



運用プロセス



※上記の運用プロセスは2020年3月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

各マザーファンドの投資方針等

国内株式マザーファンド(B号)

- 主として日本の株式に投資を行い、中長期的にTOPIX(東証株価指数)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- 株式への投資にあたっては、以下の方針に基づいて運用を行います。
 - a.原則として80銘柄以上の株式に分散投資を行います。
 - b.株価は一時的・部分的にはファンダメンタルズから乖離することがあり、この価格形成の非効率性が超過収益の源泉であるとの観点に立ち、トップダウン、ボトムアップ両面からのアプローチに基づく徹底したリサーチをベースに、市場にまだ十分織り込まれていない投資材料を的確に捉えて、意図したリスクを取ることで、市場を上回る収益を追求します。
 - c.業種配分は、主として中長期的な産業成長力に着目した調査・分析に基づいて決定します。各業種の評価にあたっては、市場の成長性、国際競争力、技術革新等に注目します。
 - d.個別銘柄の選択は、委託会社のアナリストによるグローバルかつ中長期的な視点での定量・定性双方の面からの徹底したリサーチに基づいて行います。

国内債券マザーファンド(B号)

- 主として日本の公社債に投資し、中長期的にベンチマークであるNOMURA-BPI(総合)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- 運用にあたっては、リスクを一定以下に抑えて収益の安定性を確保しつつ、定量的相対価値分析を駆使し、残存・セクター・銘柄間の割高割安を判断するだけでなく、ポートフォリオのデュレーションをベンチマーク対比で乖離させることにより、ベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

外国株式マザーファンド(B号)

- 主として日本を除く世界各国の株式に投資し、中長期的にMSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- 委託会社のエコノミスト、アナリストによる綿密かつ広範囲のリサーチにより、トップダウンおよびボトムアップ双方の視点から株価に十分織り込まれていない投資材料を見極め、リスクを取ることで超過収益の獲得を目指します。
- 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。

外国債券マザーファンド(B号)

- 主として世界主要先進国の格付けの高い公社債(原則として欧米の主要格付機関からA格相当以上の格付けを取得しているもの)に投資し、中長期的にベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- ベンチマークの動きとの連動性を維持しつつ、マクロ分析および定量分析をベースにベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。
- 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。



デュレーションとは

金利がある一定の割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標です。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2) 【投資対象】

イ 投資対象とする資産の種類

当ファンドが投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

(イ) 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項の「特定資産」をいい

ます。以下同じ。)

1. 有価証券
2. デリバティブ取引にかかる権利
3. 金銭債権
4. 約束手形

(口) 特定資産以外の資産で、以下に掲げる資産

1. 為替手形

ロ 投資対象とする有価証券

委託会社は、信託金を、主として第1号から第4号までのマザーファンドの受益証券および第5号から第22号までの有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. 国内株式マザーファンド(B号)
2. 国内債券マザーファンド(B号)
3. 外国株式マザーファンド(B号)
4. 外国債券マザーファンド(B号)
5. 株券または新株引受権証書
6. 国債証券
7. 地方債証券
8. 特別の法律により法人の発行する債券
9. 社債券(新株引受権証書と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
10. 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
11. コマーシャル・ペーパー
12. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。))および新株予約権証券
13. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、第5号から第12号までの証券または証書の性質を有するもの
14. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
15. 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
16. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
17. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。)
18. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
19. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
20. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、第5号の証券または証書、第13号ならびに第18号の証券または証書のうち第5号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第6号から第10号までの証券および第13号ならびに第18号の証券または証書のうち第6号から第10号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

ハ 投資対象とする金融商品

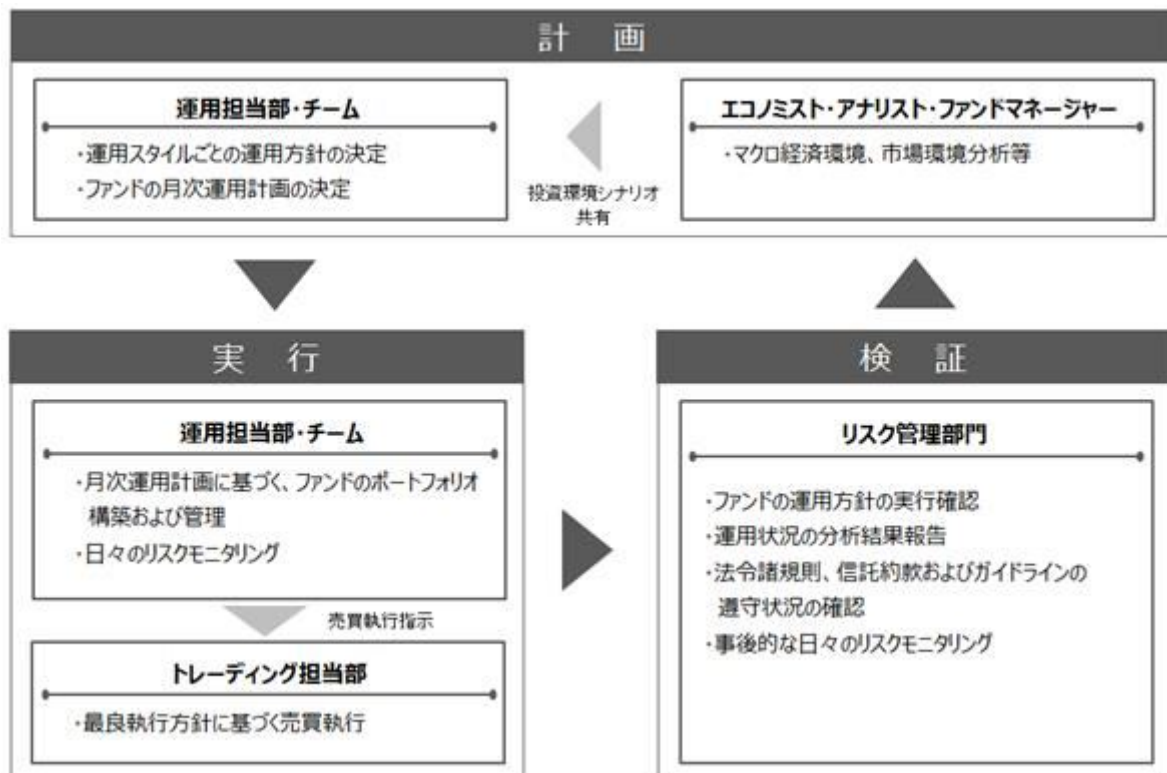
委託会社は、信託金を、上記ロに掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法

第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

(3) 【運用体制】

イ ファンドの運用体制



リスク管理部門の人員数は、約50名です。

ファンドの運用体制は、委託会社の組織変更等により、変更されることがあります。

ロ 委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

ファンドの受託会社に対しては、信託財産の日常の管理業務（保管・管理・計算等）を通じて、信託事務の正確性・迅速性の確認を行い、問題がある場合は適宜改善を求めています。

(4) 【分配方針】

毎年1回（原則として3月6日。休業日の場合は翌営業日となります。）決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配金額を決定します。

- イ 分配対象額は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ロ 分配金額は、委託会社が基準価額の水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合等や委託会社の判断によっては、分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払い

およびその金額について保証するものではありません。

- 八 収益の分配に充てず信託財産内に留保した利益については、前記「（１）投資方針」に基づいて運用を行います。

ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。（基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

（５）【投資制限】

ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- イ 株式への実質投資割合は、各ファンドにつき、以下の通りとします。

年金プラン30	信託財産の純資産総額の35%以下
年金プラン50	信託財産の純資産総額の55%以下
年金プラン70	信託財産の純資産総額の75%以下

実質投資割合とは、当ファンドが保有するある種類の資産の評価額が当ファンドの純資産総額に占める比率（「組入比率」といいます。）と、当該同一種類の資産のマザーファンドにおける組入比率に当該マザーファンド受益証券の当ファンドにおける組入比率を乗じて得た率を合計したものをいいます（以下同じ。）。

- ロ 外貨建資産への実質投資割合は、各ファンドにつき、以下の通りとします。

年金プラン30	信託財産の純資産総額の30%以下
年金プラン50	信託財産の純資産総額の40%以下
年金プラン70	信託財産の純資産総額の50%以下

- ハ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

ファンドの信託約款に基づくその他の投資制限

- イ 投資する株式等の範囲

- （イ）委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場している株式の発行会社の発行するもの、および取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- （ロ）上記（イ）にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録することが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図できるものとします。

- ロ 信用取引の指図範囲

- （イ）委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- （ロ）信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付けにかかる建玉のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該売付けにかかる建玉の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- （ハ）信託財産の一部解約等の事由により、信用取引の売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

八 先物取引等の運用指図、目的、範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、および信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。）ならびに外国の市場におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。
- (ロ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、日本の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の市場における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
- (ハ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の市場におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

ニ スワップ取引の運用指図、目的、範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- (ロ) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

ホ 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図、目的、範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- (ロ) 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ) 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ) 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり、担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- (ホ) 「金利先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日（以下「決済日」といいます。）における決済日から一定の期間を経過した日（以下「満期日」といいます。）までの期間にかかる国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率（以下「指標利率」といいます。）の数値を取り決め、その取決めにかかる数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。
- (ヘ) 「為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間にかかる為替スワップ取引（同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反

対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。以下同じ。)のスワップ幅(当該直物外国為替取引にかかる外国為替相場と当該先物外国為替取引にかかる外国為替相場との差を示す数値をいいます。以下同じ。)を取り決め、その取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭またはその取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行った先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金にかかる決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

ヘ 有価証券の貸付けの指図および範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を、次の各号の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
1. 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- (ロ) 上記(イ)の各号に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- (ハ) 委託会社は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

ト 公社債の借入れの指図および範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図をするものとします。
- (ロ) 公社債の借入れの指図は、信託財産の純資産総額の範囲内で行うものとします。
- (ハ) 信託財産の一部解約等の事由により、借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- (ニ) 公社債の借入れにかかる品貸料は、信託財産中から支弁します。

チ 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、日本の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

リ 外国為替予約の指図および範囲

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- (ロ) 外国為替予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。ただし、信託財産に属する外貨建資産の為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- (ハ) 上記(ロ)の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

ヌ 資金の借入れ

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用および運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該

借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- (ロ) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- (ハ) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (二) 借入金の利息は、信託財産中より支弁します。

ル デリバティブ取引等にかかる投資制限

委託会社は、デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

法令に基づく投資制限

- イ 同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）
委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。
- ロ デリバティブ取引にかかる投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）
委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。
- ハ 信用リスク集中回避のための投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）
委託会社は、運用財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。

（参考情報：マザーファンドの投資方針等）

（国内株式マザーファンド（B号））

（1）投資方針等

イ 基本方針

日本の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

- (イ) 主として日本の株式に投資を行い、中長期的にTOPIX（東証株価指数）を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- (ロ) 株式への投資にあたっては、以下の方針に基づいて運用を行います。
 - a. 原則として80銘柄以上の株式に分散投資を行います。

- b. 株価は一時的・部分的にはファンダメンタルズから乖離することがあり、この価格形成の非効率性が超過収益の源泉であるとの観点に立ち、トップダウン、ボトムアップ両面からのアプローチに基づく徹底したリサーチをベースに、市場にまだ十分織り込まれていない投資材料を的確に捉えて、意図したリスクを取るにより、市場を上回る収益を追求します。
- c. 業種配分は、主として中長期的な産業成長力に着目した調査・分析に基づいて決定します。各業種の評価にあたっては、市場の成長性、国際競争力、技術革新等に注目します。
- d. 個別銘柄の選択は、委託会社のアナリストによるグローバルかつ中長期的な視点での定量・定性双方の面からの徹底したリサーチに基づいて行います。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第5号、第6号、第8号、第11号、第14号、第19号および第20号の有価証券(本邦通貨表示のものに限ります。)ならびに短期社債等に投資します。

ハ 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ハ 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品の各号のうち、主として第1号から第4号の金融商品に投資します。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 株式への投資割合には制限を設けません。

(ロ) 外貨建資産への投資は行いません。

(ハ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(国内債券マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本の公社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 主として日本の公社債に投資し、中長期的にベンチマークであるNOMURA-BPI(総合)を上回る投資成果を目指して運用を行います。

(ロ) 運用にあたっては、リスクを一定以下に抑えて収益の安定性を確保しつつ、定量的相対価値分析を駆使し、残存・セクター・銘柄間の割高割安を判断するだけでなく、ポートフォリオのデュレーションをベンチマーク対比で乖離させることにより、ベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

□ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 □ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第6号から第11号まで、第13号(株券、新株引受権証書、新株引受権証券、新株予約権証券の性質を有しないもの)に限り、)から第16号まで、第19号から第21号の有価証券(本邦通貨表示のもの)に投資します。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 外貨建資産への投資は行いません。

(ロ) 国債、地方債および特別の法律により法人の発行する債券以外の債券を取得する場合は、主要格付機関のいずれかよりBBB格相当以上の格付を得ていることを条件とします。

(ハ) 上記(ロ)の債券について、いずれの格付機関の格付けもBBB格相当を下回ることとなった場合には、委託会社は、同一の発行体が発行した債券への投資割合およびBBB格相当未満の債券合計への投資割合がそれぞれ信託財産の純資産総額の5%以下および10%以下となるよう、当該債券の売却等の指図を行うものとします。

(ニ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(外国株式マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本を除く世界各国の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) 主として日本を除く世界各国の株式に投資し、中長期的にMSCIコクサイインデックス(配当込み、円ベース)を上回る投資成果を目指して運用を行います。

(ロ) 委託会社のエコノミスト、アナリストによる綿密かつ広範囲のリサーチにより、トップダウンおよびボトムアップ双方の視点から株価に十分織り込まれていない投資材料を見極め、リスクを取ることで超過収益の獲得を目指します。

(ハ) 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 □ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第5号、第6号、第8号、第9号、第11号から第14号まで、第15号(投資法人債券を除きます。)、第16号から第22号の有価証券に

投資します。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針（2）投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

（3）投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

（イ）株式への投資割合には制限を設けません。

（ロ）外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

（ハ）一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

（外国債券マザーファンド（B号））

（1）投資方針等

イ 基本方針

日本を除く世界各国の公社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

（イ）主として世界主要先進国の格付けの高い公社債（原則として欧米の主要格付機関からA格相当以上の格付けを取得しているもの）に投資し、中長期的にベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）を上回る投資成果を目指して運用を行います。

（ロ）ベンチマークの動きとの連動性を維持しつつ、マクロ分析および定量分析をベースにベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

（ハ）外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないものとします。

（2）投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針（2）投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針（2）投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、主として第6号から第11号まで、第13号（株券、新株引受権証書、新株引受権証券、新株予約権証券の性質を有しないものに限り）、第14号、第15号（投資法人債券を除きます。）、第16号、および第19号から第22号までの有価証券に投資します。

ハ 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針（2）投資対象 ハ 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

（3）投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

（イ）外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

（ロ）国債以外の債券を取得する場合は、欧米の主要格付機関のいずれかよりA格相当以上の格付けを得ていることを条件とします。

（ハ）上記（ロ）の債券について、いずれの格付機関による格付けもA格相当を下回ることとなった

場合には、委託会社は、同一の発行体が発行した債券への投資割合およびA格相当未満の格付けの債券全体への投資割合がそれぞれ信託財産の純資産総額の5%以下および10%以下となるよう、当該債券の売却等の指図を行うものとします。

- (二) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

3【投資リスク】

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。

当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

(イ) 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

(ロ) 債券市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落(金利が上昇)した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

(ハ) 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。有価証券等の格付けが低い場合は、格付けの高い場合に比べてこうしたリスクがより高いものになると想定されます。

(ニ) 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落(円高)する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動(円高)は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ホ) カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

(ヘ) 市場流動性リスク

ファンドの資金流出入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ト) ファミリーファンド方式にかかる留意点

当ファンドは「ファミリーファンド方式」により運用するため、当ファンドと同じマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・一部解約により資金の流出入が生じた場合、その結果として、当該マザーファンドにおいても組入有価証券の売買等が生じ、当ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。

(チ) 換金制限等に関する留意点

投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

(リ) 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

ロ 投資リスクの管理体制

委託会社では、運用部門から独立した組織を設置し、リスク管理部において信託約款等に定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング等、コンプライアンス部において法令・諸規則等の遵守状況の確認等を行っています。当該モニタリングおよび確認結果等は、運用評価会議、リスク管理会議およびコンプライアンス会議に報告されます。

（参考情報）投資リスクの定量的比較

ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■年金プラン30



ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



■年金プラン50



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。
※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。
※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■年金プラン70



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



※ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村證券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

ありません。

(2) 【換金（解約）手数料】

解約手数料はありません。

(3) 【信託報酬等】

純資産総額に以下の率を乗じて得た金額が、毎日信託財産の費用として計上され、ファンドの基準価額に反映されます。また、信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。

各ファンドの信託報酬率および実質的配分は以下の通りです。

< 信託報酬率およびその配分 >

	信託報酬率	配分（税抜き）		
		委託会社	販売会社	受託会社
年金プラン30	年0.99% （税抜き0.9%）	年0.43%	年0.39%	年0.08%
年金プラン50	年1.21% （税抜き1.1%）	年0.53%	年0.49%	年0.08%
年金プラン70	年1.43% （税抜き1.3%）	年0.63%	年0.59%	年0.08%

上記の配分には別途消費税等相当額がかかります。

支払先	役務の内容
委託会社	ファンドの運用等の対価
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

(4) 【その他の手数料等】

- イ 信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、原則として、「年金プラン30」は年292,600円（税抜き266,000円）を上限として、「年金プラン50」は年400,400円（税抜き364,000円）を上限として、「年金プラン70」は年468,600円（税抜き426,000円）を上限として、日割りした金額が信託財産の費用として計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。監査費用は、将来、監査法人との契約等により変更となることがあります。
- ロ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息は、信託財産中から支弁します。
- ハ 有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用、および外国における資産の保管等に要する費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）は、信託財産中から支弁するものとします。

上記ロ、ハにかかる費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、実務上、その発生もしくは請求のつど、信託財産の費用として認識され、その時点の信託財産で負担することとなります。したがって、あらかじめ、その金額、上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。

上記（1）～（4）にかかる手数料等の合計額、その上限額、計算方法等は、手数料等に保有期間に応じて異なるものが含まれていたり、発生時・請求時に初めて具体的な金額を認識するものがあつたりすることから、あらかじめ具体的に記載することはできません。

(5) 【課税上の取扱い】

イ 個別元本について

- (イ) 追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- (ロ) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本の算出が行われることがあります。
- (ハ) 受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の（収益分配金の課税について）を参照。）

ロ 一部解約時および償還時の課税について

個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者については、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

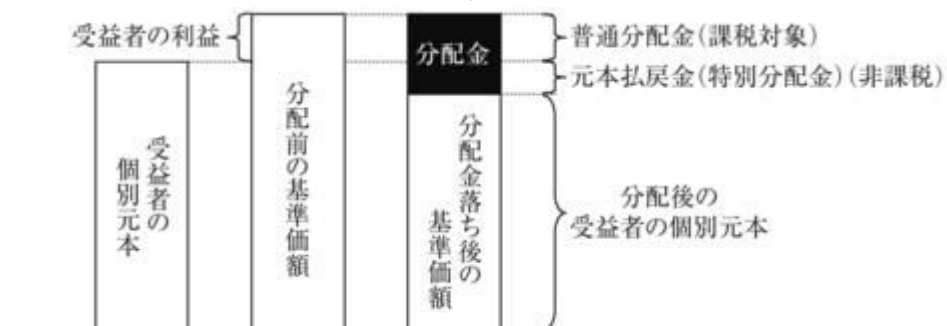
ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



上記、の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆

するものではありません。

二 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

また、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の譲渡益および利子等、他の上場株式等にかかる譲渡益および配当等との通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

なお、当ファンドは、配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

※NISA、ジュニアNISAをご利用になる場合、各制度の違いにご留意ください。
また、販売会社での専用口座の開設等、一定の要件があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

	少額投資非課税制度 NISA	未成年者少額投資非課税制度 ジュニアNISA
対象となる 投資信託	公募株式投資信託（新たに購入が必要）	
非課税対象	公募株式投資信託から生じる配当所得および譲渡所得	
利用対象と なる方	20歳以上の日本居住者 （専用口座が開設される年の1月1日現在）	0～19歳の日本居住者 （専用口座が開設される年の1月1日現在）
非課税の期間	最長5年間（投資期間は2023年まで）	
利用できる 限度額	120万円/年 （最大600万円）	80万円/年 （最大400万円）

当ファンドの外貨建資産割合および非株式割合

「年金プラン30」

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
非株式割合に関する制限はありません（約款規定なし）。

「年金プラン50」

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の40%以下とします。
非株式割合に関する制限はありません（約款規定なし）。

「年金プラン70」

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
非株式割合に関する制限はありません（約款規定なし）。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、2020年3月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

三井住友・年金プラン30

2020年 3月31日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	1,947,776,375	99.71
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		5,704,967	0.29
合計(純資産総額)		1,953,481,342	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。

三井住友・年金プラン50

2020年 3月31日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	2,552,939,899	99.73
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		7,012,262	0.27
合計(純資産総額)		2,559,952,161	100.00

三井住友・年金プラン70

2020年 3月31日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	1,562,593,423	99.72
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		4,442,044	0.28
合計(純資産総額)		1,567,035,467	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

三井住友・年金プラン30

イ 主要投資銘柄

2020年 3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	848,227,379	1.4401	1,221,571,968	1.4182	1,202,956,068	61.58
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	286,586,222	1.2873	368,922,444	1.2363	354,306,546	18.14
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	121,175,489	2.1722	263,217,398	1.9664	238,279,481	12.20
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	54,315,071	2.7771	150,839,473	2.8028	152,234,280	7.79

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.71
合計	99.71

三井住友・年金プラン50

イ 主要投資銘柄

2020年 3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	752,283,162	1.4396	1,083,003,908	1.4182	1,066,887,980	41.68
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	643,113,019	1.2895	829,294,239	1.2363	795,080,625	31.06
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	251,366,101	2.1907	550,667,718	1.9664	494,286,301	19.31
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	70,174,466	2.7771	194,887,944	2.8028	196,684,993	7.68

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	投資比率(%)

親投資信託受益証券	99.73
合計	99.73

三井住友・年金プラン70

イ 主要投資銘柄

2020年 3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	569,845,091	1.2915	735,954,936	1.2363	704,499,486	44.96
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	203,029,752	2.2012	446,919,102	1.9664	399,237,704	25.48
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	238,773,972	1.4390	343,607,676	1.4182	338,629,247	21.61
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	42,895,314	2.7775	119,142,412	2.8028	120,226,986	7.67

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.72
合計	99.72

【投資不動産物件】

三井住友・年金プラン30

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン50

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン70

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

三井住友・年金プラン30

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン50

該当事項はありません。

三井住友・年金プラン70

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

三井住友・年金プラン30

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第11期 (2011年 3月 7日)	2,735,219,894	2,735,219,894	10,278	10,278
第12期 (2012年 3月 6日)	1,859,980,494	1,859,980,494	10,200	10,200
第13期 (2013年 3月 6日)	1,515,025,944	1,515,025,944	11,218	11,218
第14期 (2014年 3月 6日)	1,536,378,137	1,536,378,137	12,317	12,317
第15期 (2015年 3月 6日)	1,755,560,244	1,755,560,244	13,557	13,557
第16期 (2016年 3月 7日)	1,771,671,925	1,771,671,925	13,396	13,396
第17期 (2017年 3月 6日)	1,848,362,284	1,848,362,284	13,871	13,871
第18期 (2018年 3月 6日)	2,013,799,098	2,013,799,098	14,403	14,403
第19期 (2019年 3月 6日)	2,045,258,288	2,045,258,288	14,318	14,318
第20期 (2020年 3月 6日)	2,039,129,760	2,039,129,760	14,302	14,302
2019年 3月末日	2,056,689,411		14,375	
4月末日	2,063,197,084		14,455	
5月末日	2,046,165,608		14,241	
6月末日	2,061,892,811		14,422	
7月末日	2,074,995,284		14,491	
8月末日	2,059,504,459		14,424	
9月末日	2,052,468,090		14,487	
10月末日	2,094,311,759		14,670	
11月末日	2,105,193,324		14,750	
12月末日	2,103,129,169		14,806	
2020年 1月末日	2,098,544,247		14,760	
2月末日	2,052,762,398		14,406	
3月末日	1,953,481,342		13,874	

三井住友・年金プラン50

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第11期 (2011年 3月 7日)	4,684,707,484	4,684,707,484	9,400	9,400
第12期 (2012年 3月 6日)	4,560,278,885	4,560,278,885	9,070	9,070
第13期 (2013年 3月 6日)	3,819,896,918	3,819,896,918	10,345	10,345
第14期 (2014年 3月 6日)	3,327,825,014	3,327,825,014	11,822	11,822
第15期 (2015年 3月 6日)	3,031,228,978	3,031,228,978	13,524	13,524
第16期 (2016年 3月 7日)	2,222,369,862	2,222,369,862	12,906	12,906
第17期 (2017年 3月 6日)	2,410,905,640	2,410,905,640	13,765	13,765
第18期 (2018年 3月 6日)	2,697,594,506	2,697,594,506	14,614	14,614
第19期 (2019年 3月 6日)	2,644,535,736	2,644,535,736	14,415	14,415
第20期 (2020年 3月 6日)	2,682,091,075	2,682,091,075	14,229	14,229
2019年 3月末日	2,648,976,217		14,438	
4月末日	2,673,895,535		14,597	
5月末日	2,621,313,466		14,192	
6月末日	2,674,615,819		14,439	
7月末日	2,705,687,485		14,544	
8月末日	2,675,277,592		14,324	
9月末日	2,690,298,482		14,545	
10月末日	2,772,923,945		14,864	
11月末日	2,801,990,539		15,027	
12月末日	2,828,620,780		15,144	
2020年 1月末日	2,829,409,086		15,030	
2月末日	2,709,825,189		14,377	
3月末日	2,559,952,161		13,640	

三井住友・年金プラン70

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第11期 (2011年 3月 7日)	4,674,441,584	4,674,441,584	8,374	8,374
第12期 (2012年 3月 6日)	4,392,083,689	4,392,083,689	7,829	7,829
第13期 (2013年 3月 6日)	5,214,552,207	5,214,552,207	9,250	9,250
第14期 (2014年 3月 6日)	4,455,471,559	4,455,471,559	11,040	11,040
第15期 (2015年 3月 6日)	3,266,521,001	3,266,521,001	13,113	13,113
第16期 (2016年 3月 7日)	1,434,685,152	1,434,685,152	12,019	12,019
第17期 (2017年 3月 6日)	1,597,214,751	1,597,214,751	13,186	13,186
第18期 (2018年 3月 6日)	1,733,343,983	1,733,343,983	14,312	14,312
第19期 (2019年 3月 6日)	1,707,541,506	1,707,541,506	13,964	13,964
第20期 (2020年 3月 6日)	1,648,696,631	1,648,696,631	13,596	13,596

2019年 3月末日	1,701,613,935		13,952
4月末日	1,721,883,429		14,177
5月末日	1,659,922,526		13,603
6月末日	1,691,327,776		13,902
7月末日	1,707,227,355		14,036
8月末日	1,660,728,922		13,680
9月末日	1,686,512,248		14,046
10月末日	1,760,348,994		14,484
11月末日	1,786,981,914		14,718
12月末日	1,798,669,270		14,888
2020年 1月末日	1,779,607,006		14,706
2月末日	1,667,261,267		13,780
3月末日	1,567,035,467		12,882

【分配の推移】

三井住友・年金プラン30

	計算期間	1万口当たり分配金（円）
第11期	2010年 3月 9日～2011年 3月 7日	0
第12期	2011年 3月 8日～2012年 3月 6日	0
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	0
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	0
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	0
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	0
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	0
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	0
第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	0
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	0

三井住友・年金プラン50

	計算期間	1万口当たり分配金（円）
第11期	2010年 3月 9日～2011年 3月 7日	0
第12期	2011年 3月 8日～2012年 3月 6日	0
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	0
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	0
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	0
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	0
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	0
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	0

第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	0
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	0

三井住友・年金プラン70

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第11期	2010年 3月 9日～2011年 3月 7日	0
第12期	2011年 3月 8日～2012年 3月 6日	0
第13期	2012年 3月 7日～2013年 3月 6日	0
第14期	2013年 3月 7日～2014年 3月 6日	0
第15期	2014年 3月 7日～2015年 3月 6日	0
第16期	2015年 3月 7日～2016年 3月 7日	0
第17期	2016年 3月 8日～2017年 3月 6日	0
第18期	2017年 3月 7日～2018年 3月 6日	0
第19期	2018年 3月 7日～2019年 3月 6日	0
第20期	2019年 3月 7日～2020年 3月 6日	0

【収益率の推移】

三井住友・年金プラン30

	収益率(%)
第11期	2.9
第12期	0.8
第13期	10.0
第14期	9.8
第15期	10.1
第16期	1.2
第17期	3.5
第18期	3.8
第19期	0.6
第20期	0.1

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

三井住友・年金プラン50

	収益率(%)
第11期	4.1
第12期	3.5

第13期	14.1
第14期	14.3
第15期	14.4
第16期	4.6
第17期	6.7
第18期	6.2
第19期	1.4
第20期	1.3

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

三井住友・年金プラン70

	収益率（％）
第11期	5.1
第12期	6.5
第13期	18.2
第14期	19.4
第15期	18.8
第16期	8.3
第17期	9.7
第18期	8.5
第19期	2.4
第20期	2.6

（注）収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

（４）【設定及び解約の実績】

三井住友・年金プラン30

	設定口数（口）	解約口数（口）
第11期	210,591,064	1,070,732,714
第12期	163,374,614	1,001,050,146
第13期	158,135,004	631,074,206
第14期	154,154,301	257,418,645
第15期	135,775,532	88,174,227
第16期	139,005,178	111,404,298
第17期	134,352,032	124,342,221
第18期	211,907,256	146,227,254
第19期	148,009,301	117,745,944
第20期	135,308,032	138,025,610

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・年金プラン50

	設定口数（口）	解約口数（口）
第11期	239,451,241	83,934,640
第12期	224,151,094	180,281,710
第13期	209,134,099	1,544,242,649
第14期	208,281,621	1,086,089,579
第15期	188,224,326	761,765,452
第16期	181,030,436	700,309,817
第17期	170,208,563	140,776,156
第18期	264,952,249	170,517,137
第19期	181,101,223	192,379,447
第20期	194,619,894	144,297,119

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・年金プラン70

	設定口数（口）	解約口数（口）
第11期	199,361,397	64,719,128
第12期	186,225,504	158,448,491
第13期	151,638,301	124,501,690
第14期	171,481,324	1,772,977,715
第15期	156,359,561	1,701,082,298
第16期	181,433,346	1,478,689,093
第17期	128,930,035	111,309,327
第18期	175,808,339	176,059,296
第19期	161,036,886	149,273,454
第20期	133,177,029	143,348,079

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

（参考）

（1）投資状況

国内株式マザーファンド（B号）

2020年 3月31日現在

資産の種類	国 / 地域	時価合計 （円）	投資比率 （%）
-------	--------	-------------	-------------

株式	日本	1,804,369,820	97.33
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		49,489,165	2.67
合計(純資産総額)		1,853,858,985	100.00

国内債券マザーファンド(B号)

2020年 3月31日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	日本	133,778,596,792	63.99
地方債証券	日本	9,710,172,000	4.64
特殊債券	日本	16,901,715,213	8.08
社債券	日本	48,086,679,000	23.00
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		574,551,928	0.29
合計(純資産総額)		209,051,714,933	100.00

外国株式マザーファンド(B号)

2020年 3月31日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	アメリカ	822,351,833	72.66
	イギリス	70,431,105	6.22
	スイス	57,482,535	5.08
	フランス	37,838,894	3.34
	ドイツ	34,172,572	3.02
	カナダ	19,369,296	1.71
	香港	16,758,144	1.48
	アイルランド	13,322,078	1.18
	スウェーデン	8,708,700	0.77
	ノルウェー	7,454,646	0.66
	オーストラリア	7,177,321	0.63
	オランダ	6,898,120	0.61
	シンガポール	6,832,060	0.60
	オーストリア	6,338,421	0.56
小計		1,115,135,725	98.53
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		16,654,298	1.47
合計(純資産総額)		1,131,790,023	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計(円)	投資 比率 (%)
為替予約取引	買建		13,962,811	1.23

外国債券マザーファンド(B号)

2020年 3月31日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	アメリカ	255,426,804	48.94
	フランス	80,788,962	15.48
	ドイツ	71,593,498	13.72
	イギリス	31,317,067	6.00
	スペイン	27,636,061	5.30
	カナダ	9,398,360	1.80
	オーストラリア	9,119,626	1.75
	ベルギー	8,252,297	1.58
	メキシコ	4,622,177	0.89
	シンガポール	4,361,738	0.84
	ポーランド	3,899,402	0.75
	スウェーデン	1,985,477	0.38
	ノルウェー	1,351,118	0.26
	小計	509,752,587	97.68
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		12,128,500	2.32
合計(純資産総額)		521,881,087	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計(円)	投資 比率 (%)
為替予約取引	買建		12,789,697	2.45
	売建		12,377,463	2.37

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

国内株式マザーファンド(B号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2020年 3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	12,100	6,794.00	82,207,400	6,501.00	78,662,100	4.24
日本	株式	KDDI	情報・通信業	17,900	3,217.00	57,584,300	3,190.00	57,101,000	3.08
日本	株式	ソニー	電気機器	8,800	6,704.00	58,995,200	6,421.00	56,504,800	3.05
日本	株式	HOYA	精密機器	5,100	9,794.00	49,949,400	9,200.00	46,920,000	2.53
日本	株式	富士フイルムホールディングス	化学	7,500	5,240.00	39,300,000	5,439.00	40,792,500	2.20
日本	株式	村田製作所	電気機器	6,900	5,646.00	38,957,400	5,472.00	37,756,800	2.04
日本	株式	ライオン	化学	16,300	2,032.33	33,127,122	2,313.00	37,701,900	2.03
日本	株式	セコム	サービス業	4,200	8,629.00	36,241,800	8,974.00	37,690,800	2.03
日本	株式	三菱商事	卸売業	16,300	2,600.00	42,380,000	2,291.50	37,351,450	2.01
日本	株式	S M C	機械	800	42,060.00	33,648,000	45,750.00	36,600,000	1.97
日本	株式	N T T ドコモ	情報・通信業	10,700	2,990.50	31,998,350	3,377.00	36,133,900	1.95
日本	株式	ダイキン工業	機械	2,700	13,329.95	35,990,867	13,170.00	35,559,000	1.92
日本	株式	キーエンス	電気機器	1,000	33,670.00	33,670,000	34,830.00	34,830,000	1.88
日本	株式	エムスリー	サービス業	10,600	2,913.22	30,880,206	3,195.00	33,867,000	1.83
日本	株式	レンゴー	パルプ・紙	39,800	777.41	30,940,949	842.00	33,511,600	1.81
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	75,200	487.40	36,652,480	403.00	30,305,600	1.63
日本	株式	エーザイ	医薬品	3,800	7,842.00	29,799,600	7,931.00	30,137,800	1.63
日本	株式	信越化学工業	化学	2,800	11,780.00	32,984,000	10,730.00	30,044,000	1.62
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	12,900	2,375.50	30,643,950	2,242.50	28,928,250	1.56
日本	株式	ニトリホールディングス	小売業	1,800	14,950.00	26,910,000	14,580.00	26,244,000	1.42
日本	株式	三菱地所	不動産業	16,000	1,828.00	29,248,000	1,595.00	25,520,000	1.38
日本	株式	日本通運	陸運業	4,800	4,840.36	23,233,769	5,290.00	25,392,000	1.37
日本	株式	東京瓦斯	電気・ガス業	9,800	2,538.11	24,873,489	2,556.00	25,048,800	1.35
日本	株式	S U B A R U	輸送用機器	11,000	2,340.10	25,741,138	2,073.50	22,808,500	1.23
日本	株式	三浦工業	機械	5,900	3,255.00	19,204,500	3,855.00	22,744,500	1.23
日本	株式	明電舎	電気機器	14,000	1,663.00	23,282,000	1,622.00	22,708,000	1.22
日本	株式	J C R ファーマ	医薬品	2,400	9,204.63	22,091,120	9,420.00	22,608,000	1.22
日本	株式	中外製薬	医薬品	1,800	11,767.38	21,181,294	12,500.00	22,500,000	1.21
日本	株式	コムシスホールディングス	建設業	7,500	2,771.00	20,782,500	2,783.00	20,872,500	1.13
日本	株式	第一三共	医薬品	2,800	6,670.00	18,676,000	7,434.00	20,815,200	1.12

□ 種別・業種別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	鉱業	0.29
		建設業	2.82
		食料品	2.15
		パルプ・紙	1.81

化学	8.01
医薬品	8.23
石油・石炭製品	0.79
鉄鋼	0.28
機械	7.52
電気機器	14.03
輸送用機器	6.59
精密機器	3.48
その他製品	0.67
電気・ガス業	1.35
陸運業	3.73
情報・通信業	11.77
卸売業	4.61
小売業	2.99
銀行業	2.77
保険業	2.64
その他金融業	1.55
不動産業	3.14
サービス業	6.12
合計	97.33

国内債券マザーファンド（B号）

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

2020年 3月31日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
日本	国債証券	第356回利付国債(10年)	24,810,000,000	102.51	25,434,467,700	100.99	25,056,611,400	0.100	2029/9/20	11.99
日本	国債証券	第357回利付国債(10年)	21,080,000,000	101.54	21,404,909,500	100.87	21,264,028,400	0.100	2029/12/20	10.17
日本	国債証券	第154回利付国債(20年)	5,910,000,000	117.27	6,930,657,000	113.98	6,736,218,000	1.200	2035/9/20	3.22
日本	国債証券	第145回利付国債(20年)	4,610,000,000	122.41	5,643,423,700	119.47	5,507,613,100	1.700	2033/6/20	2.63
日本	国債証券	第344回利付国債(10年)	4,700,000,000	102.80	4,831,602,000	101.50	4,770,547,000	0.100	2026/9/20	2.28
日本	国債証券	第141回利付国債(5年)	4,560,000,000	101.72	4,638,477,600	100.98	4,605,052,800	0.100	2024/9/20	2.20
日本	国債証券	第24回利付国債(物価連動・10年)	4,220,000,000	102.85	4,374,514,730	99.75	4,237,063,992	0.100	2029/3/10	2.03
日本	国債証券	第153回利付国債(20年)	3,630,000,000	118.59	4,305,107,400	115.30	4,185,716,700	1.300	2035/6/20	2.00
日本	国債証券	第166回利付国債(20年)	3,350,000,000	109.91	3,682,253,000	106.90	3,581,384,500	0.700	2038/9/20	1.71
日本	国債証券	第10回利付国債(40年)	2,600,000,000	119.99	3,119,740,000	115.91	3,013,790,000	0.900	2057/3/20	1.44

日本	社債券	第18回株式会社日立製作所無担保社債(社債間限定同順位特約付)	3,000,000,000	100.03	3,000,930,000	99.47	2,984,130,000	0.060	2023/3/10	1.43
日本	社債券	第53回株式会社ホンダファイナンス無担保社債	2,900,000,000	100.01	2,900,522,000	99.75	2,892,837,000	0.050	2021/12/20	1.38
日本	国債証券	第62回利付国債(30年)	2,780,000,000	105.34	2,928,452,000	102.19	2,841,076,600	0.500	2049/3/20	1.36
日本	国債証券	第168回利付国債(20年)	2,640,000,000	104.33	2,754,312,000	101.52	2,680,154,400	0.400	2039/3/20	1.28
日本	国債証券	第160回利付国債(20年)	2,400,000,000	109.67	2,632,296,000	106.63	2,559,120,000	0.700	2037/3/20	1.22
日本	国債証券	第59回利付国債(30年)	2,360,000,000	110.86	2,616,319,600	107.47	2,536,292,000	0.700	2048/6/20	1.21
日本	国債証券	第147回利付国債(20年)	2,090,000,000	121.63	2,542,150,600	118.53	2,477,423,300	1.600	2033/12/20	1.19
日本	国債証券	第163回利付国債(20年)	2,300,000,000	105.17	2,419,094,000	105.04	2,416,081,000	0.600	2037/12/20	1.16
日本	国債証券	第48回利付国債(30年)	1,900,000,000	127.90	2,430,271,000	124.55	2,366,545,000	1.400	2045/9/20	1.13
日本	社債券	第14回富士フイルムホールディングス株式会社無担保社債(社債)	2,200,000,000	100.04	2,201,034,000	99.56	2,190,320,000	0.060	2023/3/3	1.05
日本	国債証券	第128回利付国債(20年)	1,800,000,000	122.26	2,200,734,000	120.03	2,160,666,000	1.900	2031/6/20	1.03
日本	社債券	第44回株式会社日産フィナンシャルサービス無担保社債	2,000,000,000	99.97	1,999,420,000	99.82	1,996,580,000	0.030	2020/6/19	0.96
日本	社債券	第5回株式会社ファーストリテイリング無担保社債	2,000,000,000	100.05	2,001,100,000	99.44	1,988,900,000	0.110	2023/6/6	0.95
日本	国債証券	第33回利付国債(30年)	1,470,000,000	136.31	2,003,757,000	133.17	1,957,628,400	2.000	2040/9/20	0.94
日本	国債証券	第61回利付国債(30年)	1,660,000,000	110.89	1,840,807,200	107.45	1,783,686,600	0.700	2048/12/20	0.85
日本	国債証券	第142回利付国債(5年)	1,720,000,000	101.81	1,751,252,400	101.02	1,737,544,000	0.100	2024/12/20	0.83
日本	国債証券	第34回利付国債(30年)	1,260,000,000	141.07	1,777,532,400	137.88	1,737,376,200	2.200	2041/3/20	0.83
日本	社債券	第7回日本電産株式会社無担保社債	1,700,000,000	100.17	1,703,043,000	99.75	1,695,750,000	0.114	2022/8/30	0.81
日本	国債証券	第349回利付国債(10年)	1,600,000,000	103.18	1,650,880,000	101.75	1,628,064,000	0.100	2027/12/20	0.78
日本	国債証券	第63回利付国債(30年)	1,610,000,000	102.55	1,651,055,000	99.47	1,601,611,900	0.400	2049/6/20	0.77

□ 種類別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	投資比率(%)
国債証券	63.99
地方債証券	4.64
特殊債券	8.08
社債券	23.00
合計	99.73

外国株式マザーファンド(B号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2020年 3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
アメリカ	株式	AMAZON.COM INC	小売	207	208,927.50	43,247,994	213,736.67	44,243,492	3.91
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・ 娯楽	320	138,857.31	44,434,342	124,752.91	39,920,933	3.53
アメリカ	株式	PROCTER & GAMBLE CO	家庭用品・ パーソナル 用品	2,207	12,974.97	28,635,774	12,515.44	27,621,598	2.44
アメリカ	株式	ADOBE INC	ソフトウェ ア・サービ ス	778	37,197.10	28,939,347	34,650.38	26,957,998	2.38
アメリカ	株式	VISA INC	ソフトウェ ア・サービ ス	1,479	19,782.35	29,258,107	18,018.98	26,650,076	2.35
アメリカ	株式	FACEBOOK INC-A	メディア・ 娯楽	1,448	19,520.68	28,265,952	18,060.33	26,151,370	2.31
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	小売	1,135	24,492.93	27,799,482	21,341.56	24,222,674	2.14
スイス	株式	NESTLE SA-REGISTERED	食品・飲 料・タバコ	1,951	11,593.80	22,619,504	11,298.35	22,043,096	1.95
アメリカ	株式	THE WALT DISNEY CO.	メディア・ 娯楽	1,914	12,032.42	23,030,053	10,861.23	20,788,402	1.84
アメリカ	株式	ANSYS INC	ソフトウェ ア・サービ ス	807	26,590.27	21,458,354	25,589.19	20,650,483	1.82
アメリカ	株式	COSTCO WHOLESALE CORP	食品・生活 必需品小売 り	646	33,525.53	21,657,496	31,682.58	20,466,953	1.81
アメリカ	株式	BROADCOM INC	半導体・半 導体製造装 置	782	29,028.94	22,700,635	26,131.17	20,434,576	1.81
アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・バ イオテクノ ロジー・ラ イフサイエ ンス	1,355	15,110.61	20,474,878	15,066.42	20,415,006	1.80
アメリカ	株式	NEXTERA ENERGY INC	公益事業	759	29,092.40	22,081,133	26,773.26	20,320,911	1.80
アメリカ	株式	UNITEDHEALTH GROUP INC	ヘルスケア 機器・サー ビス	724	30,005.41	21,723,919	27,346.80	19,799,085	1.75
アメリカ	株式	CMS ENERGY CORPORATION	公益事業	2,869	7,137.89	20,478,608	6,740.93	19,339,729	1.71
イギリス	株式	ASTRAZENECA PLC	医薬品・バ イオテクノ ロジー・ラ イフサイエ ンス	2,028	9,794.74	19,863,752	9,469.71	19,204,591	1.70
アメリカ	株式	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	医薬品・バ イオテクノ ロジー・ラ イフサイエ ンス	580	33,272.67	19,298,154	31,012.19	17,987,074	1.59
アメリカ	株式	FIDELITY NATIONAL INFORMATION SERVICES	ソフトウェ ア・サービ ス	1,254	15,063.43	18,889,551	13,635.31	17,098,680	1.51
アメリカ	株式	SYNOPSYS INC	ソフトウェ ア・サービ ス	1,205	15,122.39	18,222,489	14,072.80	16,957,733	1.50
アメリカ	株式	S&P GLOBAL INC	各種金融	624	29,490.84	18,402,289	26,879.92	16,773,071	1.48
アメリカ	株式	AMERICAN EXPRESS COMPANY	各種金融	1,685	11,663.01	19,652,188	9,824.08	16,553,582	1.46
アメリカ	株式	MARSH & MCLENNAN COS	保険	1,649	11,243.93	18,541,244	9,745.72	16,070,703	1.42

アメリカ	株式	DANAHER CORP	ヘルスケア 機器・サー ビス	1,023	15,991.38	16,359,184	15,325.44	15,677,926	1.39
アメリカ	株式	MONDELEZ INTERNATIONAL INC	食品・飲 料・タバコ	2,794	5,988.41	16,731,634	5,564.47	15,547,151	1.37
アメリカ	株式	CHEVRON CORPORATION	エネルギー	1,926	10,131.74	19,513,735	7,830.31	15,081,193	1.33
アメリカ	株式	UNION PACIFIC CORP	運輸	987	16,629.07	16,412,901	15,257.96	15,059,612	1.33
アメリカ	株式	SERVICENOW INC	ソフトウェ ア・サービ ス	476	33,421.50	15,908,635	31,167.82	14,835,884	1.31
アメリカ	株式	KEYSIGHT TECHNOLOGIES INC	テクノロ ジー・ハー ドウェアお よび機器	1,566	10,348.10	16,205,126	9,322.37	14,598,844	1.29
アメリカ	株式	ENTEGRIS INC	半導体・半 導体製造装 置	2,787	5,738.48	15,993,155	5,173.77	14,419,320	1.27

□ 種類別・業種別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	国内 / 外国	業種	投資比率 (%)
株式	外国	エネルギー	2.88
		素材	4.67
		資本財	7.98
		運輸	1.33
		自動車・自動車部品	0.43
		耐久消費財・アパレル	1.75
		消費者サービス	1.77
		メディア・娯楽	7.67
		小売	6.71
		食品・生活必需品小売り	1.81
		食品・飲料・タバコ	5.94
		家庭用品・パーソナル用品	2.44
		ヘルスケア機器・サービス	5.09
		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	10.43
		銀行	3.90
		各種金融	3.89
		保険	4.30
		不動産	1.03
ソフトウェア・サービス	12.87		
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	3.13		
公益事業	4.19		
半導体・半導体製造装置	4.33		
合計			98.53

外国債券マザーファンド(B号)

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

2020年 3月31日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.875	680,000	11,763.74	79,993,449	11,874.37	80,745,736	2.875	2023/10/31	15.47
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.875	550,000	12,171.85	66,945,182	12,353.05	67,941,801	2.875	2025/11/30	13.02
フランス	国債証券	FRANCE O.A.T. 0.5	350,000	12,688.76	44,410,674	12,510.78	43,787,758	0.500	2025/5/25	8.39
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 3	240,000	14,130.52	33,913,251	15,035.96	36,086,327	3.000	2045/11/15	6.91
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.125	320,000	11,088.92	35,484,550	11,132.96	35,625,498	2.125	2021/5/31	6.83
ドイツ	国債証券	DEUTSCHLAND REP 1	230,000	12,979.06	29,851,850	12,859.39	29,576,610	1.000	2024/8/15	5.67
ドイツ	国債証券	BUNDESUBL-120 0	120,000	12,435.59	14,922,709	12,367.68	14,841,224	0.000	2025/4/11	2.84
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.25	110,000	11,990.00	13,189,005	12,217.86	13,439,654	2.250	2027/8/15	2.58
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 4.375	70,000	16,383.16	11,468,216	17,081.20	11,956,845	4.375	2038/2/15	2.29
ドイツ	国債証券	DEUTSCHLAND REP 0.25	80,000	13,019.06	10,415,257	12,808.23	10,246,584	0.250	2028/8/15	1.96
フランス	国債証券	FRANCE O.A.T. 4	50,000	20,792.13	10,396,068	19,643.14	9,821,570	4.000	2038/10/25	1.88
フランス	国債証券	FRANCE O.A.T. 0	80,000	11,990.62	9,592,501	12,015.25	9,612,203	0.000	2029/11/25	1.84
カナダ	国債証券	CANADA-GOV'T 1	120,000	7,751.92	9,302,304	7,831.96	9,398,360	1.000	2027/6/1	1.80
オーストラリア	国債証券	AUSTRALIAN GOVT. 2.75	120,000	7,645.29	9,174,349	7,599.68	9,119,626	2.750	2027/11/21	1.75
ドイツ	国債証券	DEUTSCHLAND REP 0.25	70,000	12,619.69	8,833,788	12,699.19	8,889,439	0.250	2027/2/15	1.70
ベルギー	国債証券	BELGIAN 0320 4.25	40,000	22,023.74	8,809,496	20,630.74	8,252,297	4.250	2041/3/28	1.58
ドイツ	国債証券	DEUTSCHLAND REP 2.5	40,000	21,060.10	8,424,041	20,099.10	8,039,641	2.500	2046/8/15	1.54
スペイン	国債証券	SPANISH GOV'T 5.85	60,000	13,396.05	8,037,633	13,298.26	7,978,958	5.850	2022/1/31	1.53
スペイン	国債証券	SPANISH GOV'T 4.7	30,000	21,243.79	6,373,138	19,881.88	5,964,564	4.700	2041/7/30	1.14
フランス	国債証券	FRANCE O.A.T. 3.25	30,000	20,747.42	6,224,228	19,269.19	5,780,757	3.250	2045/5/25	1.11
イギリス	国債証券	UK TSY GILT 3.75	40,000	14,049.26	5,619,704	14,030.46	5,612,185	3.750	2021/9/7	1.08
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.375	40,000	13,908.97	5,563,592	13,736.81	5,494,724	2.375	2049/11/15	1.05
イギリス	国債証券	UK TSY GILT 1.75	30,000	17,540.91	5,262,273	18,184.98	5,455,494	1.750	2057/7/22	1.05
スペイン	国債証券	SPANISH GOV'T 1.5	40,000	13,258.45	5,303,381	12,878.40	5,151,361	1.500	2027/4/30	0.99
スペイン	国債証券	SPANISH GOV'T 2.7	30,000	17,045.91	5,113,775	15,623.75	4,687,125	2.700	2048/10/31	0.90
メキシコ	国債証券	MEXICAN BONOS 5.75	1,070,000	445.57	4,767,685	431.97	4,622,177	5.750	2026/3/5	0.89
イギリス	国債証券	UK TSY GILT 1.625	30,000	14,904.90	4,471,473	14,940.77	4,482,232	1.625	2028/10/22	0.86
シンガポール	国債証券	SINGAPORE GOV'T 2.875	50,000	8,664.17	4,332,087	8,723.47	4,361,738	2.875	2029/7/1	0.84
イギリス	国債証券	UK TSY GILT 1	30,000	13,780.88	4,134,266	13,794.35	4,138,306	1.000	2024/4/22	0.79
ポーランド	国債証券	POLAND GOVT BOND 2.5	140,000	2,748.83	3,848,368	2,785.28	3,899,402	2.500	2024/4/25	0.75

ロ 種類別の投資比率

2020年 3月31日現在

種類	投資比率(%)
----	---------

国債証券	97.68
合計	97.68

投資不動産物件

国内株式マザーファンド(B号)

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド(B号)

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド(B号)

該当事項はありません。

外国債券マザーファンド(B号)

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

国内株式マザーファンド(B号)

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド(B号)

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド(B号)

2020年 3月31日現在

種類	資産の名称	買建 / 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約取引	米ドル	買建	87,460.04	9,450,066	9,517,401	0.84
	ユーロ	買建	9,995.48	1,191,885	1,194,859	0.10
	英ポンド	買建	4,860.83	650,169	647,997	0.05
	スイスフラン	買建	3,730.65	419,982	422,309	0.03
	オーストラリアドル	買建	17,077.29	1,140,016	1,128,467	0.09
	シンガポールドル	買建	13,773.94	1,045,400	1,051,778	0.09

(注) 日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

外国債券マザーファンド(B号)

2020年 3月31日現在

種類	資産の名称	買建/ 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約取引	ユーロ	買建	80,238.40	9,626,274	9,591,697	1.83
	デンマーククローネ	買建	200,000.00	3,151,484	3,198,000	0.61
	ユーロ	売建	103,575.07	12,357,848	12,377,463	2.37

(注) 日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

参考情報

基準日: 2020年3月31日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移

分配の推移

■年金プラン30



決算期	分配金
2020年3月	0円
2019年3月	0円
2018年3月	0円
2017年3月	0円
2016年3月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
 ※直近5計算期間を記載しています。

■年金プラン50



決算期	分配金
2020年3月	0円
2019年3月	0円
2018年3月	0円
2017年3月	0円
2016年3月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
 ※直近5計算期間を記載しています。

■年金プラン70



決算期	分配金
2020年3月	0円
2019年3月	0円
2018年3月	0円
2017年3月	0円
2016年3月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
 ※直近5計算期間を記載しています。

※基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

主要な資産の状況

■年金プラン30

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	99.71
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.29
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	61.58
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	18.14
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	12.20
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	7.79

■年金プラン50

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	99.73
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.27
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	41.68
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	31.06
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	19.31
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	7.68

■年金プラン70

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	99.72
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.28
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(B号)	44.96
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(B号)	25.48
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	21.61
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(B号)	7.67

※比率は、ファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

■国内株式マザーファンド(B号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
株式	日本	97.33
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		2.67
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	4.24
日本	株式	KDDI	情報・通信業	3.08
日本	株式	ソニー	電気機器	3.05
日本	株式	HOYA	精密機器	2.53
日本	株式	富士フイルムホールディングス	化学	2.20
日本	株式	村田製作所	電気機器	2.04
日本	株式	ライオン	化学	2.03
日本	株式	セコム	サービス業	2.03
日本	株式	三菱商事	卸売業	2.01
日本	株式	SMC	機械	1.97

■国内債券マザーファンド(B号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
国債証券	日本	63.99
社債券	日本	23.00
特殊債券	日本	8.08
地方債証券	日本	4.64
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		0.29
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
日本	国債証券	第356回利付国債(10年)	0.100	2029/09/20	11.99
日本	国債証券	第357回利付国債(10年)	0.100	2029/12/20	10.17
日本	国債証券	第154回利付国債(20年)	1.200	2035/09/20	3.22
日本	国債証券	第145回利付国債(20年)	1.700	2033/06/20	2.63
日本	国債証券	第344回利付国債(10年)	0.100	2026/09/20	2.28
日本	国債証券	第141回利付国債(5年)	0.100	2024/09/20	2.20
日本	国債証券	第24回利付国債(物価連動・10年)	0.100	2029/03/10	2.03
日本	国債証券	第153回利付国債(20年)	1.300	2035/06/20	2.00
日本	国債証券	第166回利付国債(20年)	0.700	2038/09/20	1.71
日本	国債証券	第10回利付国債(40年)	0.900	2057/03/20	1.44

■外国株式マザーファンド(B号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
株式	アメリカ	72.66
	イギリス	6.22
	スイス	5.08
	フランス	3.34
	ドイツ	3.02
	カナダ	1.71
	香港	1.48
	その他	5.01
	現金・預金・その他の資産(負債控除後)	
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
アメリカ	株式	AMAZON.COM INC	小売	3.91
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	3.53
アメリカ	株式	PROCTER & GAMBLE CO	家庭用品・パーソナル用品	2.44
アメリカ	株式	ADOBE INC	ソフトウェア・サービス	2.38
アメリカ	株式	VISA INC	ソフトウェア・サービス	2.35
アメリカ	株式	FACEBOOK INC-A	メディア・娯楽	2.31
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	小売	2.14
スイス	株式	NESTLE SA-REGISTERED	食品・飲料・タバコ	1.95
アメリカ	株式	THE WALT DISNEY CO.	メディア・娯楽	1.84
アメリカ	株式	ANSYS INC	ソフトウェア・サービス	1.82

※比率は、マザーファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

■外国債券マザーファンド(B号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
国債証券	アメリカ	48.94
	フランス	15.48
	ドイツ	13.72
	イギリス	6.00
	スペイン	5.30
	カナダ	1.80
	オーストラリア	1.75
	その他	4.69
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		2.32
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.875	2.875	2023/10/31	15.47
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.875	2.875	2025/11/30	13.02
フランス	国債証券	FRANCE O.A.T. 0.5	0.500	2025/05/25	8.39
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 3	3.000	2045/11/15	6.91
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.125	2.125	2021/05/31	6.83
ドイツ	国債証券	DEUTSCHLAND REP 1	1.000	2024/08/15	5.67
ドイツ	国債証券	BUNDESUBL-120 0	0.000	2025/04/11	2.84
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 2.25	2.250	2027/08/15	2.58
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B 4.375	4.375	2038/02/15	2.29
ドイツ	国債証券	DEUTSCHLAND REP 0.25	0.250	2028/08/15	1.96

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)

■年金プラン30



■年金プラン50



■年金プラン70



※2020年の収益率は、年初から2020年3月31日までの騰落率を表示しています。

※ベンチマークの情報はあくまで参考情報として記載しており、ファンドの運用実績ではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

イ 申込方法

（イ）ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社に取引口座を開設の上、当ファンドの取得申込みを行っていただきます。

当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」の2つの申込方法がありますが、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。お申込みの販売会社にお問い合わせください。

（ロ）原則として午後3時までに取得申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。

なお、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受け付けを中止させていただく場合、既に受け付けた取得申込みを取り消させていただく場合があります。

（ハ）当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

ファンドのお買付けに関しましては、クーリング・オフ制度の適用はありません。

ロ 申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

ハ 申込手数料

ありません。

ニ 申込単位

お申込単位の詳細は、取扱いの販売会社にお問い合わせください。

ホ 照会先

手続き等のご不明な点についての委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

ヘ 申込取扱場所・払込取扱場所

販売会社において申込み・払込みを取り扱います。

ト 払込期日

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約請求（一部解約の実行請求）により換金することができます。

お買付けの販売会社にお申し出ください。

解約請求のお申込みに関しては、原則として午後3時までに解約請求のお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込みに制限を設ける場合があります。解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるファンドの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

一部解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。

一部解約価額は、委託会社の営業日において日々算出されますので、委託会社（電話：0120-88-2976）にお問い合わせいただければ、いつでもお知らせします。

委託会社は、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、および既に受け付けた一部解約の実行請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

イ 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。

なお、外貨建資産の円換算については、原則として日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算するものとし、予約為替の評価は、原則として日本における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

ロ 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「年金30」、「年金50」、「年金70」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号	ホームページ
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

（2）【保管】

ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

2000年9月19日から下記「(5) その他 イ 信託の終了」に記載された各事由が生じた場合における信託終了の日までとなります。

(4) 【計算期間】

毎年3月7日から翌年3月6日までとすることを原則としますが、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。なお、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

(5) 【その他】

イ 信託の終了

(イ) 信託契約の解約

- a. 委託会社は、当ファンドの信託契約を解約することが受益者にとって有利であると認めるとき、各ファンドの残存口数が30億口を下回ることとなったとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、上記aの事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- c. 上記bの公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d. 上記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、信託契約の解約をしません。
- e. 委託会社は、当ファンドの信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f. 上記c～eまでの取扱いは、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記cの一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(ロ) 信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁より当ファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い信託契約を解約し、信託を終了させます。

(ハ) 委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が、監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が当ファンドに関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、当ファンドは、その委託会社と受託会社との間において存続します。

(ニ) 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- a. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。

- b. 上記により受託会社が辞任し、または解任された場合は、委託会社は新受託会社を選任します。
- c. 委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。

ロ 収益分配金、償還金の支払い

(イ) 収益分配金

- a. 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- b. 分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払われます。
ただし、分配金自動再投資コースにかかる収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づいて、毎計算期間終了日の翌営業日に再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(ロ) 償還金

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払われます。

八 信託約款の変更

- (イ) 委託会社は、当ファンドの信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、監督官庁より変更の命令を受けたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨および内容を監督官庁に届け出ます。
- (ロ) 委託会社は、上記(イ)の変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- (ハ) 上記(ロ)の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- (ニ) 上記(ハ)の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、(イ)の信託約款の変更をしません。
- (ホ) 委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

二 反対者の買取請求権

当ファンドの信託契約の解約または重大な信託約款の変更が行われる場合において、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間内に委託会社に異議を述べた受益者は、自己に帰属する受益権を、受託会社に信託財産をもって買い取るよう請求をすることができます。

ホ 販売会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間で締結される販売契約(名称の如何を問わず、ファンドの募集・販売の取扱い、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を規定するもの)は、期間満了の3ヵ月前に当事者のいずれからも、何らの

意思表示もない場合は、自動的に1年間更新されます。販売契約の内容は、必要に応じて、委託会社と販売会社との合意により変更されることがあります。

へ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社の事業の全部または一部の譲渡、もしくは分割承継により、当ファンドに関する事業が譲渡・承継されることがあります。

ト 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.smd-am.co.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

チ 運用にかかる報告書の開示方法

委託会社は毎決算後、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に従い、期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書(全体版)および運用報告書(全体版)の記載事項のうち重要なものを記載した交付運用報告書を作成します。

交付運用報告書は、原則として、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。なお、運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページで閲覧できます。

4【受益者の権利等】

委託会社の指図に基づく行為によりファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドの受益権は、信託の日時を異にすることにより差異が生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次の通りです。

イ 分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分にに応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヶ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に支払われます。

ただし、分配金自動再投資コースをお申込みの場合の収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づき、毎計算期間終了日の翌営業日に再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、受益者が、その支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ロ 償還金請求権

受益者は、持分にに応じて償還金を請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に支払われます。

ハ 償還金は、受益者がその支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ニ 一部解約実行請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。詳細は、前記「第2 管理及び運営 2 換金(解約)手続等」の記載をご参照ください。

ホ 信託約款変更等に対する異議申立権および受益権の買取請求権

委託会社が、当ファンドの解約(監督官庁の命令による解約等の場合を除きます。)または重大な信託約款の変更を行おうとする場合において、当該解約または信託約款変更に関する異議のある受益者は、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間中に異議を申し立てることができます。異議を申し立てた受益者の受益権の口数が、受益権の総口数の過半数となる場合は、当該解約または信託約款変更は行われません。

当該解約または信託約款変更が行われる場合において、前述の異議を申し立てた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨の請求ができます。

ヘ 帳簿閲覧・謄写請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第20期(平成31年3月7日から令和2年3月6日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三井住友・年金プラン30】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第19期 (平成31年 3月 6日現在)	第20期 (令和 2年 3月 6日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	21,384,646
コール・ローン	31,588,275	4,640,160
親投資信託受益証券	2,034,986,705	2,023,528,472
未収入金	31,140,000	1,470,000
流動資産合計	2,097,714,980	2,051,023,278
資産合計	2,097,714,980	2,051,023,278
負債の部		
流動負債		
未払金	42,500,000	-
未払解約金	134,315	1,508,444
未払受託者報酬	860,306	910,097
未払委託者報酬	8,818,112	9,328,436
未払利息	31	13
その他未払費用	143,928	146,528
流動負債合計	52,456,692	11,893,518
負債合計	52,456,692	11,893,518
純資産の部		
元本等		
元本	1,428,476,241	1,425,758,663
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	616,782,047	613,371,097
元本等合計	2,045,258,288	2,039,129,760
純資産合計	2,045,258,288	2,039,129,760
負債純資産合計	2,097,714,980	2,051,023,278

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第19期		第20期	
	自	平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日	自	平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
営業収益				
有価証券売買等損益		9,008,688		18,341,767
営業収益合計		9,008,688		18,341,767
営業費用				
支払利息		12,279		6,909
受託者報酬		1,750,907		1,802,916
委託者報酬		17,946,729		18,479,800
その他費用		299,422		293,451
営業費用合計		20,009,337		20,583,076
営業利益又は営業損失 ()		11,000,649		2,241,309
経常利益又は経常損失 ()		11,000,649		2,241,309
当期純利益又は当期純損失 ()		11,000,649		2,241,309
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額 ()		511,954		2,928,633
期首剰余金又は期首欠損金 ()		615,586,214		616,782,047
剰余金増加額又は欠損金減少額		64,590,193		61,437,784
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		64,590,193		61,437,784
剰余金減少額又は欠損金増加額		51,881,757		59,678,792
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		51,881,757		59,678,792
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金 ()		616,782,047		613,371,097

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第20期
	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第19期	第20期
	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,428,476,241口	1,425,758,663口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4318円 (10,000口当たりの純資産額 14,318円)	1口当たり純資産額 1.4302円 (10,000口当たりの純資産額 14,302円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第19期	第20期
	自 平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（5,790,833円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（344,688,390円）、および分配準備積立金（357,456,246円）より、分配対象収益は707,935,469円（1万口当たり4,955.85円）ですが、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（5,524,782円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（377,042,312円）、および分配準備積立金（329,692,751円）より、分配対象収益は712,259,845円（1万口当たり4,995.63円）ですが、分配を行っておりません。</p>

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	第20期 自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

項目	第20期
	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

金融商品の時価等に関する事項

項目	第20期
	(令和 2年 3月 6日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第19期(自 平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	4,428,220円
合計	4,428,220円

第20期(自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	1,907,997円
合計	1,907,997円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第20期 自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）

項 目	第19期 （平成31年 3月 6日現在）	第20期 （令和 2年 3月 6日現在）
期首元本額	1,398,212,884円	1,428,476,241円
期中追加設定元本額	148,009,301円	135,308,032円
期中一部解約元本額	117,745,944円	138,025,610円

（4）【附属明細表】

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

（単位：円）

種類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド（B号）	297,165,128	383,788,762	
	国内債券マザーファンド（B号）	849,682,448	1,224,477,375	
	外国株式マザーファンド（B号）	100,151,858	227,064,292	
	外国債券マザーファンド（B号）	67,767,831	188,198,043	
合計		1,314,767,265	2,023,528,472	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三井住友・年金プラン50】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第19期 (平成31年 3月 6日現在)	第20期 (令和 2年 3月 6日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	22,169,094
コール・ローン	45,859,972	4,810,374
親投資信託受益証券	2,631,321,718	2,672,031,297
未収入金	37,920,000	1,870,000
流動資産合計	2,715,101,690	2,700,880,765
資産合計	2,715,101,690	2,700,880,765
負債の部		
流動負債		
未払金	54,340,000	-
未払解約金	497,170	1,885,055
未払受託者報酬	1,129,584	1,214,842
未払委託者報酬	14,402,172	15,489,217
未払利息	46	14
その他未払費用	196,982	200,562
流動負債合計	70,565,954	18,789,690
負債合計	70,565,954	18,789,690
純資産の部		
元本等		
元本	1,834,618,829	1,884,941,604
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	809,916,907	797,149,471
元本等合計	2,644,535,736	2,682,091,075
純資産合計	2,644,535,736	2,682,091,075
負債純資産合計	2,715,101,690	2,700,880,765

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第19期		第20期	
	自	平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日	自	平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
営業収益				
有価証券売買等損益		4,609,077		3,040,421
営業収益合計		4,609,077		3,040,421
営業費用				
支払利息		16,691		9,714
受託者報酬		2,315,410		2,369,479
委託者報酬		29,521,510		30,210,885
その他費用		409,663		401,657
営業費用合計		32,263,274		32,991,735
営業利益又は営業損失()		36,872,351		36,032,156
経常利益又は経常損失()		36,872,351		36,032,156
当期純利益又は当期純損失()		36,872,351		36,032,156
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		849,068		3,372,696
期首剰余金又は期首欠損金()		851,697,453		809,916,907
剰余金増加額又は欠損金減少額		83,107,717		90,405,477
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		83,107,717		90,405,477
剰余金減少額又は欠損金増加額		88,864,980		63,768,061
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		88,864,980		63,768,061
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		809,916,907		797,149,471

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第20期
	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第19期	第20期
	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,834,618,829口	1,884,941,604口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4415円 (10,000口当たりの純資産額 14,415円)	1口当たり純資産額 1.4229円 (10,000口当たりの純資産額 14,229円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第19期	第20期
	自 平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（8,636,044円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（405,761,549円）、および分配準備積立金（561,029,228円）より、分配対象収益は975,426,821円（1万口当たり5,316.76円）ですが、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（9,489,252円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（475,376,178円）、および分配準備積立金（527,072,853円）より、分配対象収益は1,011,938,283円（1万口当たり5,368.52円）ですが、分配を行っておりません。</p>

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	第20期 自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

項目	第20期
	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第20期
	(令和 2年 3月 6日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第19期（自 平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	12,344,554円
合計	12,344,554円

第20期（自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	25,762,128円
合計	25,762,128円

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第20期 自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）

項 目	第19期 （平成31年 3月 6日現在）	第20期 （令和 2年 3月 6日現在）
期首元本額	1,845,897,053円	1,834,618,829円
期中追加設定元本額	181,101,223円	194,619,894円
期中一部解約元本額	192,379,447円	144,297,119円

（4）【附属明細表】

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

（単位：円）

種類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド（B号）	658,553,041	850,521,252	
	国内債券マザーファンド（B号）	757,539,027	1,091,689,491	
	外国株式マザーファンド（B号）	211,047,924	478,487,853	
	外国債券マザーファンド（B号）	90,501,855	251,332,701	
合計		1,717,641,847	2,672,031,297	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【三井住友・年金プラン70】

(1) 【貸借対照表】

	(単位：円)	
	第19期 (平成31年 3月 6日現在)	第20期 (令和 2年 3月 6日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	18,908,003
コール・ローン	33,340,841	4,102,765
親投資信託受益証券	1,698,847,079	1,638,388,687
未収入金	21,480,000	640,000
流動資産合計	1,753,667,920	1,662,039,455
資産合計	1,753,667,920	1,662,039,455
負債の部		
流動負債		
未払金	33,210,000	-
未払解約金	914,308	634,538
未払受託者報酬	724,416	767,618
未払委託者報酬	11,047,314	11,706,081
未払利息	33	12
その他未払費用	230,343	234,575
流動負債合計	46,126,414	13,342,824
負債合計	46,126,414	13,342,824
純資産の部		
元本等		
元本	1,222,846,777	1,212,675,727
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	484,694,729	436,020,904
元本等合計	1,707,541,506	1,648,696,631
純資産合計	1,707,541,506	1,648,696,631
負債純資産合計	1,753,667,920	1,662,039,455

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第19期		第20期	
	自	平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日	自	平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
営業収益				
有価証券売買等損益		17,917,974		19,538,392
営業収益合計		17,917,974		19,538,392
営業費用				
支払利息		11,233		6,858
受託者報酬		1,486,028		1,501,431
委託者報酬		22,661,788		22,896,602
その他費用		471,104		467,824
営業費用合計		24,630,153		24,872,715
営業利益又は営業損失()		42,548,127		44,411,107
経常利益又は経常損失()		42,548,127		44,411,107
当期純利益又は当期純損失()		42,548,127		44,411,107
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		510,794		3,247,680
期首剰余金又は期首欠損金()		522,260,638		484,694,729
剰余金増加額又は欠損金減少額		68,990,937		55,854,856
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		68,990,937		55,854,856
剰余金減少額又は欠損金増加額		64,519,513		56,869,894
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		64,519,513		56,869,894
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		484,694,729		436,020,904

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第20期
	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第19期	第20期
	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,222,846,777口	1,212,675,727口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.3964円 (10,000口当たりの純資産額 13,964円)	1口当たり純資産額 1.3596円 (10,000口当たりの純資産額 13,596円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第19期	第20期
	自 平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（6,114,550円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（245,805,779円）、および分配準備積立金（369,228,576円）より、分配対象収益は621,148,905円（1万口当たり5,079.52円）ですが、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（7,434,144円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（282,735,610円）、および分配準備積立金（333,465,695円）より、分配対象収益は623,635,449円（1万口当たり5,142.62円）ですが、分配を行っておりません。</p>

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	第20期 自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

項目	第20期
	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

金融商品の時価等に関する事項

項目	第20期
	(令和 2年 3月 6日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第19期(自 平成30年 3月 7日 至 平成31年 3月 6日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	22,056,873円
合計	22,056,873円

第20期(自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	35,945,411円
合計	35,945,411円

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第20期 自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）

項 目	第19期 （平成31年 3月 6日現在）	第20期 （令和 2年 3月 6日現在）
期首元本額	1,211,083,345円	1,222,846,777円
期中追加設定元本額	161,036,886円	133,177,029円
期中一部解約元本額	149,273,454円	143,348,079円

（4）【附属明細表】

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

（単位：円）

種類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド（B号）	583,433,134	753,503,892	
	国内債券マザーファンド（B号）	227,460,655	327,793,549	
	外国株式マザーファンド（B号）	175,403,152	397,674,026	
	外国債券マザーファンド（B号）	57,404,206	159,417,220	
合計		1,043,701,147	1,638,388,687	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

「三井住友・年金プラン30」「三井住友・年金プラン50」および「三井住友・年金プラン70」は、「国内株式マザーファンド(B号)」、「国内債券マザーファンド(B号)」、「外国株式マザーファンド(B号)」および「外国債券マザーファンド(B号)」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

国内株式マザーファンド(B号)

貸借対照表

	(単位:円)	
	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	45,959,390
コール・ローン	38,921,910	9,972,526
株式	2,074,713,540	1,929,556,840
未収入金	25,552,818	-
未収配当金	2,034,800	2,293,700
流動資産合計	2,141,223,068	1,987,782,456
資産合計	2,141,223,068	1,987,782,456
負債の部		
流動負債		
未払金	24,071,847	-
未払解約金	3,670,000	-
未払利息	39	29
その他未払費用	341	1,311
流動負債合計	27,742,227	1,340
負債合計	27,742,227	1,340
純資産の部		
元本等		
元本	1,542,947,870	1,539,151,303
剰余金		
剰余金又は欠損金()	570,532,971	448,629,813
元本等合計	2,113,480,841	1,987,781,116
純資産合計	2,113,480,841	1,987,781,116
負債純資産合計	2,141,223,068	1,987,782,456

注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,542,947,870口	1,539,151,303口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.3698円 (10,000口当たりの純資産額 13,698円)	1口当たり純資産額 1.2915円 (10,000口当たりの純資産額 12,915円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
	(1) 金融商品の内容

項目	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいておりません。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(株式) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(平成31年 3月 6日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,512,720,055円
同期中における追加設定元本額	426,724,014円
同期中における一部解約元本額	396,496,199円
平成31年 3月 6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	305,166,842円
三井住友・年金プラン50	645,692,793円
三井住友・年金プラン70	592,088,235円
合計	1,542,947,870円

(令和 2年 3月 6日現在)	
開示対象ファンドの	

(令和2年3月6日現在)

期首における当該親投資信託の元本額	1,542,947,870円
同期中における追加設定元本額	369,502,208円
同期中における一部解約元本額	373,298,775円
令和2年3月6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	297,165,128円
三井住友・年金プラン50	658,553,041円
三井住友・年金プラン70	583,433,134円
合計	1,539,151,303円

附属明細表

有価証券明細表

(a)株式

(単位:円)

銘柄	株数	評価額		備考
		単価	金額	
国際石油開発帝石	20,000	880.00	17,600,000	
コムシスホールディングス	7,500	2,771.00	20,782,500	
大成建設	7,000	3,510.00	24,570,000	
五洋建設	29,100	545.00	15,859,500	
日揮ホールディングス	9,100	1,254.00	11,411,400	
キッコーマン	2,700	4,980.00	13,446,000	
ニチレイ	5,500	2,765.00	15,207,500	
レンゴー	22,100	770.00	17,017,000	
日産化学	2,600	4,400.00	11,440,000	
信越化学工業	2,900	11,780.00	34,162,000	
三井化学	4,700	2,253.00	10,589,100	
花王	2,300	8,165.00	18,779,500	
富士フイルムホールディングス	7,500	5,240.00	39,300,000	
ライオン	8,800	1,996.00	17,564,800	
ユニ・チャーム	2,300	3,518.00	8,091,400	
武田薬品工業	6,800	3,817.00	25,955,600	
アステラス製薬	10,300	1,652.00	17,015,600	
エーザイ	3,900	7,842.00	30,583,800	
小野薬品工業	6,500	2,190.00	14,235,000	
JCRファーマ	1,800	9,520.00	17,136,000	
第一三共	2,900	6,670.00	19,343,000	
大塚ホールディングス	2,900	3,923.00	11,376,700	
出光興産	6,000	2,608.00	15,648,000	
日本碍子	11,900	1,568.00	18,659,200	

日本製鉄	16,900	1,089.50	18,412,550
三浦工業	6,000	3,255.00	19,530,000
ディスコ	800	22,000.00	17,600,000
オプトラン	3,900	2,871.00	11,196,900
S M C	800	42,060.00	33,648,000
ダイキン工業	1,100	13,970.00	15,367,000
C K D	5,500	1,568.00	8,624,000
富士電機	3,400	2,674.00	9,091,600
明電舎	14,000	1,663.00	23,282,000
日本電産	500	13,040.00	6,520,000
富士通	1,600	10,985.00	17,576,000
日本信号	15,600	1,130.00	17,628,000
アンリツ	5,200	1,771.00	9,209,200
ソニー	8,800	6,704.00	58,995,200
T D K	3,400	10,220.00	34,748,000
キーエンス	1,000	33,670.00	33,670,000
日本マイクロニクス	7,300	870.00	6,351,000
スタンレー電気	7,500	2,448.00	18,360,000
村田製作所	7,000	5,646.00	39,522,000
東京エレクトロン	800	22,435.00	17,948,000
デンソー	4,900	3,876.00	18,992,400
いすゞ自動車	9,100	933.80	8,497,580
トヨタ自動車	13,200	6,794.00	89,680,800
本田技研工業	8,600	2,687.50	23,112,500
S U B A R U	8,800	2,432.00	21,401,600
オリンパス	8,600	1,958.00	16,838,800
H O Y A	5,200	9,794.00	50,928,800
バンダイナムコホールディングス	1,600	5,860.00	9,376,000
任天堂	300	37,410.00	11,223,000
オカムラ	2,600	848.00	2,204,800
東急	6,500	1,602.00	10,413,000
東日本旅客鉄道	800	8,093.00	6,474,400
ヤマトホールディングス	8,600	1,675.00	14,405,000
T I S	1,800	6,510.00	11,718,000
コーエーテクモホールディングス	6,500	2,645.00	17,192,500
Zホールディングス	65,700	394.00	25,885,800
伊藤忠テクノソリューションズ	6,200	2,930.00	18,166,000
大塚商会	2,700	4,675.00	12,622,500
日本ユニシス	6,800	3,295.00	22,406,000
日本電信電話	17,900	2,493.00	44,624,700
K D D I	17,900	3,217.00	57,584,300
ソフトバンク	15,300	1,464.50	22,406,850

NTTドコモ	10,700	2,990.50	31,998,350
エヌ・ティ・ティ・データ	7,600	1,263.00	9,598,800
ソフトバンクグループ	3,400	4,783.00	16,262,200
伊藤忠商事	13,000	2,375.50	30,881,500
三井物産	12,700	1,737.50	22,066,250
三菱商事	16,400	2,600.00	42,640,000
キャノンマーケティングジャパン	7,300	2,297.00	16,768,100
パン・パシフィック・インターナショナルホ	10,400	1,877.00	19,520,800
ファミリーマート	3,100	2,261.00	7,009,100
日本瓦斯	3,400	3,390.00	11,526,000
ニトリホールディングス	1,800	14,950.00	26,910,000
あおぞら銀行	7,800	2,531.00	19,741,800
三菱UFJフィナンシャル・グループ	75,400	487.40	36,749,960
みずほフィナンシャルグループ	108,800	137.00	14,905,600
MS&ADインシュアランスグループホール	4,900	3,233.00	15,841,700
第一生命ホールディングス	15,100	1,337.00	20,188,700
全国保証	2,300	3,955.00	9,096,500
クレディセゾン	8,800	1,503.00	13,226,400
オリックス	13,800	1,689.50	23,315,100
オープンハウス	5,800	2,882.00	16,715,600
東急不動産ホールディングス	38,700	709.00	27,438,300
三菱地所	16,100	1,828.00	29,430,800
日本M&Aセンター	5,400	3,455.00	18,657,000
総合警備保障	3,400	4,970.00	16,898,000
ベネフィット・ワン	4,700	1,561.00	7,336,700
りらいあコミュニケーションズ	7,800	1,203.00	9,383,400
セコム	4,200	8,629.00	36,241,800
合計	930,600		1,929,556,840

(b) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド(B号)

貸借対照表

(平成31年 3月 6日現在)

(令和 2年 3月 6日現在)

資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	214,008,503
コール・ローン	877,956,962	46,436,766
国債証券	95,151,530,880	131,030,222,930
地方債証券	42,186,474,300	15,499,323,000
特殊債券	42,642,488,501	19,896,287,293
社債券	41,245,657,000	48,592,155,000
未収入金	31,510,000	3,052,986,000
未収利息	436,305,096	339,138,881
前払費用	19,843,265	16,409,824
流動資産合計	222,591,766,004	218,686,968,197
資産合計	222,591,766,004	218,686,968,197
負債の部		
流動負債		
未払金	-	3,000,000,000
未払解約金	154,010,910	73,631,789
未払利息	888	136
その他未払費用	8,448	7,734
流動負債合計	154,020,246	3,073,639,659
負債合計	154,020,246	3,073,639,659
純資産の部		
元本等		
元本	157,781,348,625	149,614,489,690
剰余金		
剰余金又は欠損金()	64,656,397,133	65,998,838,848
元本等合計	222,437,745,758	215,613,328,538
純資産合計	222,437,745,758	215,613,328,538
負債純資産合計	222,591,766,004	218,686,968,197

注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

項目	（平成31年 3月 6日現在）	（令和 2年 3月 6日現在）
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	157,781,348,625口	149,614,489,690口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4098円 (10,000口当たりの純資産額 14,098円)	1口当たり純資産額 1.4411円 (10,000口当たりの純資産額 14,411円)

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	(1) 金融商品の内容 1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券を組み入れております。 2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。 3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 (2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。

項目	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
3.金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(令和 2年 3月 6日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	<p>金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）

（平成31年 3月 6日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	133,979,316,557円
同期中における追加設定元本額	29,702,798,402円
同期中における一部解約元本額	5,900,766,334円
平成31年 3月 6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	857,909,988円
三井住友・年金プラン50	734,017,480円
三井住友・年金プラン70	230,775,799円
三井住友・DCバランスファンド（安定型）	75,203,605円
三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）	129,148,972円
三井住友・DCバランスファンド（成長型）	41,359,290円
三井住友・DC国内債券アクティブ	302,859,911円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,225,193,422円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド（適格機関投資家専用）	4,323,647,265円
S M A M・バランスファンドVA安定型（適格機関投資家専用）	259,770,029円
S M A M・バランスファンドVA株40型（適格機関投資家専用）	1,134,426円
S M A M・バランスファンドVA株60型（適格機関投資家専用）	339,669円
S M A M・バランスファンドVA株80型（適格機関投資家専用）	137,005円
バランスファンドVA（安定運用型）＜適格機関投資家限定＞	113,114,391円
三井住友 / F O F s 用日本債F（適格機関投資家限定）	146,486,737,373円
合計	157,781,348,625円

（令和 2年 3月 6日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	157,781,348,625円

(令和2年3月6日現在)	
同期中における追加設定元本額	7,246,317,704円
同期中における一部解約元本額	15,413,176,639円
令和2年3月6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	849,682,448円
三井住友・年金プラン50	757,539,027円
三井住友・年金プラン70	227,460,655円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	84,236,387円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	144,962,116円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	48,126,340円
三井住友・DC国内債券アクティブ	312,664,155円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,438,400,796円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	3,957,517,795円
S M A M・バランスファンドV A安定型(適格機関投資家専用)	167,713,383円
S M A M・バランスファンドV A株40型(適格機関投資家専用)	1,145,196円
S M A M・バランスファンドV A株60型(適格機関投資家専用)	271,570円
S M A M・バランスファンドV A株80型(適格機関投資家専用)	108,129円
バランスファンドV A(安定運用型) <適格機関投資家限定>	106,379,327円
三井住友/ F O F s 用日本債F(適格機関投資家限定)	138,518,282,366円
合計	149,614,489,690円

附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	第409回利付国債(2年)	6,080,000,000	6,125,296,000	
	第141回利付国債(5年)	4,560,000,000	4,638,477,600	
	第142回利付国債(5年)	1,720,000,000	1,751,252,400	
	第8回利付国債(40年)	300,000,000	407,187,000	
	第10回利付国債(40年)	2,900,000,000	3,479,884,000	

第12回利付国債(40年)	40,000,000	42,424,400	
第344回利付国債(10年)	5,100,000,000	5,242,902,000	
第349回利付国債(10年)	4,300,000,000	4,437,041,000	
第355回利付国債(10年)	1,300,000,000	1,334,359,000	
第356回利付国債(10年)	24,810,000,000	25,434,467,700	
第357回利付国債(10年)	2,030,000,000	2,078,314,000	
第20回利付国債(30年)	600,000,000	824,052,000	
第30回利付国債(30年)	510,000,000	713,530,800	
第33回利付国債(30年)	1,470,000,000	2,003,757,000	
第34回利付国債(30年)	1,260,000,000	1,777,532,400	
第36回利付国債(30年)	300,000,000	414,816,000	
第39回利付国債(30年)	100,000,000	137,818,000	
第42回利付国債(30年)	500,000,000	669,655,000	
第45回利付国債(30年)	1,200,000,000	1,557,324,000	
第46回利付国債(30年)	330,000,000	429,188,100	
第48回利付国債(30年)	1,900,000,000	2,430,271,000	
第52回利付国債(30年)	210,000,000	221,684,400	
第55回利付国債(30年)	880,000,000	998,509,600	
第59回利付国債(30年)	2,360,000,000	2,616,319,600	
第60回利付国債(30年)	1,240,000,000	1,443,136,800	
第61回利付国債(30年)	1,660,000,000	1,840,807,200	
第62回利付国債(30年)	2,780,000,000	2,928,452,000	
第63回利付国債(30年)	1,860,000,000	1,907,485,800	
第65回利付国債(30年)	3,580,000,000	3,667,817,400	
第128回利付国債(20年)	1,800,000,000	2,200,734,000	
第132回利付国債(20年)	900,000,000	1,085,400,000	
第134回利付国債(20年)	1,300,000,000	1,588,184,000	
第135回利付国債(20年)	1,200,000,000	1,451,520,000	
第138回利付国債(20年)	1,130,000,000	1,342,304,400	
第142回利付国債(20年)	600,000,000	739,002,000	
第145回利付国債(20年)	4,610,000,000	5,643,423,700	
第147回利付国債(20年)	2,090,000,000	2,542,150,600	
第148回利付国債(20年)	400,000,000	482,148,000	
第150回利付国債(20年)	1,320,000,000	1,578,258,000	
第151回利付国債(20年)	900,000,000	1,051,110,000	
第153回利付国債(20年)	3,630,000,000	4,305,107,400	

	第154回利付国債(20年)	6,210,000,000	7,282,715,400	
	第158回利付国債(20年)	1,300,000,000	1,382,329,000	
	第160回利付国債(20年)	2,400,000,000	2,632,296,000	
	第164回利付国債(20年)	210,000,000	223,295,100	
	第166回利付国債(20年)	3,350,000,000	3,682,253,000	
	第168回利付国債(20年)	4,840,000,000	5,049,814,000	
	第169回利付国債(20年)	820,000,000	839,901,400	
	第24回利付国債(物価連動・10年)	4,220,000,000	4,374,514,730	
国債証券合計		119,110,000,000	131,030,222,930	
地方債証券	第6回東京都公募公債(20年)	600,000,000	661,392,000	
	第14回東京都公募公債(20年)	1,100,000,000	1,303,918,000	
	第708回東京都公募公債	100,000,000	102,108,000	
	第720回東京都公募公債	400,000,000	411,928,000	
	第724回東京都公募公債	500,000,000	513,125,000	
	第759回東京都公募公債	100,000,000	100,692,000	
	第763回東京都公募公債	800,000,000	809,880,000	
	第766回東京都公募公債	200,000,000	202,404,000	
	第768回東京都公募公債	800,000,000	812,584,000	
	第769回東京都公募公債	800,000,000	814,040,000	
	第191回神奈川県公募公債	500,000,000	509,855,000	
	第4回埼玉県公募公債(20年)	700,000,000	816,172,000	
	平成24年度第2回埼玉県公募公債	300,000,000	306,207,000	
	平成28年度第3回埼玉県公募公債	200,000,000	201,318,000	
	平成28年度第10回埼玉県公募公債	100,000,000	101,740,000	
	平成29年度第3回埼玉県公募公債	200,000,000	202,952,000	
	平成29年度第7回埼玉県公募公債(5年)	1,300,000,000	1,301,716,000	
	平成30年度第7回埼玉県公募公債(5年)	300,000,000	300,663,000	
	平成30年度第2回福岡県公募公債	100,000,000	100,227,000	
	第111回共同発行市場公募地方債	1,000,000,000	1,021,190,000	
	第112回共同発行市場公募地方債	1,000,000,000	1,020,770,000	
	第114回共同発行市場公募地方債	200,000,000	204,332,000	
	第126回共同発行市場公募地方債	300,000,000	309,078,000	
	第128回共同発行市場公募地方債	300,000,000	307,827,000	
第154回共同発行市場公募地方債	600,000,000	615,648,000		
第155回共同発行市場公募地方債	900,000,000	913,977,000		
平成29年度第4回横浜市公募公債	1,000,000,000	1,018,990,000		

	第 8 6 回川崎市公募公債	500,000,000	514,590,000	
地方債証券合計		14,900,000,000	15,499,323,000	
特殊債券	第 1 4 回政府保証株式会社日本政策投資銀行社債	600,000,000	611,538,000	
	第 1 7 5 回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	700,000,000	715,645,000	
	第 2 3 8 回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	127,000,000	130,012,440	
	第 2 4 1 回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	102,517,000	
	第 2 4 3 回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	102,253,000	
	第 2 回地方公営企業等金融機構債券(20年)	250,000,000	301,960,000	
	第 2 回地方公共団体金融機構債券(15年)	500,000,000	550,865,000	
	第 9 回地方公共団体金融機構債券(20年)	800,000,000	953,736,000	
	第 2 0 回公営企業債券(20年)	400,000,000	464,324,000	
	第 2 3 回地方公共団体金融機構債券(5年)	500,000,000	501,115,000	
	第 2 4 回公営企業債券(20年)	200,000,000	237,262,000	
	第 5 3 回地方公共団体金融機構債券	1,500,000,000	1,542,360,000	
	第 5 9 回政府保証地方公共団体金融機構債券	234,000,000	241,015,320	
	第 6 6 回政府保証地方公共団体金融機構債券	100,000,000	102,621,000	
	第 6 7 回地方公共団体金融機構債券	800,000,000	820,696,000	
	第 7 1 回政府保証地方公共団体金融機構債券	214,000,000	218,808,580	
	第 7 3 回政府保証地方公共団体金融機構債券	201,000,000	206,621,970	
	第 7 5 回政府保証地方公共団体金融機構債券	303,000,000	311,074,950	
	F 7 7 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	110,272,000	
	F 8 0 回地方公共団体金融機構債券	400,000,000	456,572,000	
	第 9 1 回地方公共団体金融機構債券	400,000,000	405,108,000	
	F 1 1 6 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	110,639,000	
	F 1 3 4 回地方公共団体金融機構債券	200,000,000	221,380,000	
	F 1 4 3 回地方公共団体金融機構債券	500,000,000	550,710,000	
	F 1 6 3 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	108,400,000	
	F 1 7 2 回地方公共団体金融機構債券	300,000,000	321,870,000	
F 2 2 3 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	101,240,000		
F 2 2 5 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	108,860,000		
F 2 2 6 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	109,557,000		
F 3 0 3 回地方公共団体金融機構債券	100,000,000	106,001,000		

F 3 0 6 回地方公共団体金融機構債券	300,000,000	314,742,000	
第 2 5 回政府保証日本政策金融公庫債券	400,000,000	410,348,000	
第 6 8 回都市再生債券	150,000,000	153,391,500	
第 2 1 回政府保証中部国際空港債券	169,000,000	173,221,620	
第 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	72,950,000	76,405,641	
第 4 回貸付債権担保 S 種住宅金融支援機構債券	105,245,000	110,721,949	
第 9 回貸付債権担保 S 種住宅金融公庫債券	39,924,000	41,590,827	
第 4 6 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	65,440,000	70,075,769	
第 4 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	61,646,000	65,919,917	
第 5 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	31,245,000	33,247,492	
第 5 7 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	42,396,000	45,141,564	
第 5 9 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	43,337,000	46,150,438	
第 7 1 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	42,651,000	44,745,164	
第 8 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	107,222,000	112,088,806	
第 9 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	57,784,000	60,251,376	
第 9 1 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	58,558,000	60,986,985	
第 1 2 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	89,808,000	91,926,570	
第 1 2 7 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	91,115,000	92,891,742	
第 1 2 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	90,841,000	92,737,760	
第 1 2 9 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	183,410,000	187,753,148	
第 1 3 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	459,300,000	468,871,812	
第 1 3 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	371,548,000	379,443,395	
第 1 3 4 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	93,802,000	95,583,299	
第 1 3 5 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	93,987,000	95,768,993	
第 1 3 6 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	94,372,000	96,511,413	
第 1 3 9 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	95,470,000	97,778,464	
第 1 4 0 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	955,130,000	972,580,225	
第 1 4 1 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	961,390,000	977,541,352	
第 1 4 2 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	289,470,000	293,476,264	
第 1 4 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	193,572,000	196,094,243	
第 1 4 6 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	588,648,000	591,667,764	
第 1 4 7 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	490,680,000	493,167,747	
第 1 4 8 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	984,900,000	985,047,735	
第 1 5 2 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	499,435,000	506,691,790	
第 1 5 3 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	200,000,000	203,048,000	
第 1 5 4 回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	300,000,000	303,216,000	

	第6回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	13,997,000	14,594,811	
	第7回貸付債権担保住宅金融支援機構債券	15,076,000	15,831,458	
特殊債券合計		19,032,349,000	19,896,287,293	
社債券	第1回大和ハウス工業株式会社利払繰延条項・ 期限前償還劣後	1,100,000,000	1,104,884,000	
	第7回大和ハウス工業株式会社無担保社債	300,000,000	300,165,000	
	株式会社協和エクシオ第3回無担保社債	100,000,000	100,159,000	
	第11回アサヒグループホールディングス株式 会社無担保社債	400,000,000	402,308,000	
	第11回キリンホールディングス株式会社無担 保社債	1,400,000,000	1,403,094,000	
	第13回キリンホールディングス株式会社無担 保社債	500,000,000	499,635,000	
	第2回サントリーホールディングス株式会社利 払繰延条項・期限前	600,000,000	598,446,000	
	第24回味の素株式会社無担保社債	800,000,000	803,704,000	
	第30回東レ株式会社無担保社債	900,000,000	916,614,000	
	第6回株式会社クラレ無担保社債	200,000,000	200,040,000	
	第57回住友化学株式会社無担保社債	100,000,000	100,547,000	
	第24回株式会社三菱ケミカルホールディング ス無担保社債	400,000,000	405,976,000	
	第5回花王株式会社無担保社債	800,000,000	800,976,000	
	第14回株式会社オリエントランド無担保社 債	200,000,000	201,294,000	
	第14回富士フイルムホールディングス株式会 社無担保社債	2,200,000,000	2,201,034,000	
	第10回株式会社ブリヂストン無担保社債	600,000,000	603,210,000	
	第11回株式会社ブリヂストン無担保社債	400,000,000	405,064,000	
	第30回住友金属鉱山株式会社無担保社債	600,000,000	599,574,000	
	第34回株式会社豊田自動織機無担保社債	500,000,000	500,040,000	
	第5回住友重機械工業株式会社無担保社債	400,000,000	400,368,000	
	第7回株式会社ジェイテクト無担保社債	500,000,000	507,315,000	
	第8回株式会社ジェイテクト無担保社債	400,000,000	402,544,000	
	第18回株式会社日立製作所無担保社債	3,000,000,000	3,000,930,000	
	第7回日本電産株式会社無担保社債	1,700,000,000	1,703,043,000	
	第34回ソニー株式会社無担保社債	900,000,000	900,873,000	
	第16回株式会社デンソー無担保社債	800,000,000	800,752,000	
	明治安田生命2016基金特定目的会社第1回 B号特定社債	500,000,000	500,520,000	

第1回日本生命2017基金特定目的会社特定社債	100,000,000	100,115,000	
豊田合成第4回無担保社債	100,000,000	100,564,000	
日本生命第2回劣後ローン流動化第1回劣後債	700,000,000	710,976,000	
第1回明治安田生命2019基金特定目的会社特定社債	1,000,000,000	1,000,500,000	
第2回ユニ・ファミリーマートホールディングス株式会社無担保社債	200,000,000	201,184,000	
第33回株式会社丸井グループ無担保社債	100,000,000	99,958,000	
第44回株式会社日産フィナンシャルサービス無担保社債	2,000,000,000	1,999,420,000	
第50回株式会社ホンダファイナンス無担保社債	700,000,000	699,720,000	
第53回株式会社ホンダファイナンス無担保社債	2,900,000,000	2,900,522,000	
第32回リコーリース株式会社無担保社債	1,000,000,000	1,000,050,000	
第78回アコム株式会社無担保社債	700,000,000	703,906,000	
第79回アコム株式会社無担保社債	700,000,000	701,316,000	
第1回三菱UFJリース株式会社無担保社債	400,000,000	401,196,000	
第48回三菱UFJリース株式会社無担保社債	1,200,000,000	1,202,388,000	
第60回三菱UFJリース株式会社無担保社債	600,000,000	601,350,000	
第75回三菱UFJリース株式会社無担保社債	900,000,000	902,520,000	
第44回野村ホールディングス株式会社無担保社債	200,000,000	201,314,000	
第1回東京海上日動火災保険株式会社利払繰延条項付劣後	1,500,000,000	1,531,695,000	
第58回三井不動産株式会社無担保社債	1,100,000,000	1,099,857,000	
第59回三井不動産株式会社無担保社債	1,000,000,000	1,003,360,000	
第66回三井不動産株式会社無担保社債	500,000,000	503,610,000	
第125回三菱地所株式会社無担保社債	200,000,000	200,630,000	
第127回三菱地所株式会社無担保社債	1,100,000,000	1,100,616,000	
第129回三菱地所株式会社無担保社債	1,300,000,000	1,303,094,000	
第130回三菱地所株式会社無担保社債	300,000,000	300,195,000	
第79回東京急行電鉄株式会社無担保社債	700,000,000	717,871,000	
第23回KDDI株式会社無担保社債	700,000,000	701,267,000	
第24回KDDI株式会社無担保社債	600,000,000	604,770,000	
第28回KDDI株式会社無担保社債	200,000,000	202,354,000	
第509回東北電力株式会社社債	600,000,000	603,048,000	
	600,000,000	605,964,000	

第1回大阪瓦斯株式会社利払繰延条項・期限前償還劣後			
第2回大阪瓦斯株式会社利払繰延条項・期限前償還劣後	400,000,000	406,860,000	
日鉄住金物産株式会社第1回無担保社債	1,200,000,000	1,204,152,000	
日鉄住金物産株式会社第2回無担保社債	600,000,000	611,604,000	
第5回株式会社ファーストリテイリング無担保社債	2,000,000,000	2,001,100,000	
社債券合計	48,400,000,000	48,592,155,000	
合計		215,017,988,223	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド（B号）

貸借対照表

	（単位：円）	
	（平成31年 3月 6日現在）	（令和 2年 3月 6日現在）
資産の部		
流動資産		
預金	1,036,727	4,668,720
金銭信託	-	10,588,414
コール・ローン	5,943,446	2,297,534
株式	1,119,413,682	1,084,992,188
未収配当金	1,679,607	1,963,668
流動資産合計	1,128,073,462	1,104,510,524
資産合計	1,128,073,462	1,104,510,524
負債の部		
流動負債		
未払解約金	85,390,000	1,290,000
未払利息	6	6
その他未払費用	155	389
流動負債合計	85,390,161	1,290,395
負債合計	85,390,161	1,290,395
純資産の部		
元本等		
元本	472,122,688	486,602,934
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	570,560,613	616,617,195
元本等合計	1,042,683,301	1,103,220,129
純資産合計	1,042,683,301	1,103,220,129
負債純資産合計	1,128,073,462	1,104,510,524

注記表

（重要な会計方針の注記）

項目	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

項目	（平成31年 3月 6日現在）	（令和 2年 3月 6日現在）
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	472,122,688口	486,602,934口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.2085円 (10,000口当たりの純資産額 22,085円)	1口当たり純資産額 2.2672円 (10,000口当たりの純資産額 22,672円)

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(平成31年 3月 6日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	516,193,584円
同期中における追加設定元本額	148,912,406円
同期中における一部解約元本額	192,983,302円
平成31年 3月 6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	92,058,118円
三井住友・年金プラン50	202,707,779円
三井住友・年金プラン70	177,356,791円
合計	472,122,688円

（令和 2年 3月 6日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	472,122,688円
同期中における追加設定元本額	176,895,378円
同期中における一部解約元本額	162,415,132円
令和 2年 3月 6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン 3 0	100,151,858円
三井住友・年金プラン 5 0	211,047,924円
三井住友・年金プラン 7 0	175,403,152円
合計	486,602,934円

附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

通貨	銘柄	株数	評価額		備考
			単価	金額	
米ドル	CHEVRON CORPORATION	1,635	97.19	158,905.65	
	CONOCOPHILLIPS	2,430	47.70	115,911.00	
	MARATHON PETROLEUM CORPORATION	2,052	41.21	84,562.92	
	AVERY DENNISON CORP	741	119.12	88,267.92	
	ROCKWELL AUTOMATION INC	678	183.40	124,345.20	
	UNITED TECHNOLOGIES CORP	1,218	126.44	154,003.92	
	XYLEM INC	1,072	82.46	88,397.12	
	UNION PACIFIC CORP	846	154.96	131,096.16	
	YETI HOLDINGS INC	3,356	28.39	95,276.84	
	BRIGHT HORIZONS FAMILY SOLUT	737	152.37	112,296.69	
	MCDONALD'S CORPORATION	741	198.32	146,955.12	
	ALPHABET INC-CL A	267	1,314.76	351,040.92	
	FACEBOOK INC-A	1,206	185.17	223,315.02	
	THE WALT DISNEY CO.	1,594	113.98	181,684.12	
	AMAZON.COM INC	174	1,924.03	334,781.22	
	HOME DEPOT INC	945	234.81	221,895.45	
	O'REILLY AUTOMOTIVE INC NEW	178	361.33	64,316.74	
	COSTCO WHOLESALE CORP	336	315.76	106,095.36	
	LAMB WESTON HOLDINGS INC	1,667	86.36	143,962.12	
	MONDELEZ INTERNATIONAL INC	2,006	56.86	114,061.16	
PROCTER & GAMBLE CO	1,653	121.63	201,054.39		
BOSTON SCIENTIFIC CORP	3,383	37.46	126,727.18		

	DANAHER CORP	860	149.47	128,544.20
	EDWARDS LIFESCIENCES CORP	344	208.96	71,882.24
	UNITEDHEALTH GROUP INC	603	282.96	170,624.88
	ELI LILLY & CO	1,129	140.15	158,229.35
	GILEAD SCIENCES INC	2,074	76.13	157,893.62
	IQVIA HOLDINGS INC	994	138.21	137,380.74
	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	483	312.89	151,125.87
	ZOETIS INC	909	139.56	126,860.04
	BANK OF AMERICA CORP	8,251	26.78	220,961.78
	AMERICAN EXPRESS COMPANY	1,403	110.94	155,648.82
	S&P GLOBAL INC	524	278.42	145,892.08
	GLOBE LIFE INC	1,378	89.65	123,537.70
	MARSH & MCLENNAN COS	1,400	106.56	149,184.00
	ADOBE INC	648	351.03	227,467.44
	ANSYS INC	672	248.06	166,696.32
	ATLASSIAN CORP PLC-CLASS A	562	152.21	85,542.02
	FIDELITY NATIONAL INFORMATION SERVICES	1,054	142.75	150,458.50
	PTC INC	1,606	69.43	111,504.58
	SERVICENOW INC	257	329.33	84,637.81
	SYNOPSIS INC	1,013	142.64	144,494.32
	VISA INC	1,232	186.96	230,334.72
	APPLE INC	378	292.92	110,723.76
	KEYSIGHT TECHNOLOGIES INC	1,342	98.60	132,321.20
	CMS ENERGY CORPORATION	2,390	67.73	161,874.70
	NEXTERA ENERGY INC	632	276.16	174,533.12
	BROADCOM INC	651	274.04	178,400.04
	ENTEGRIS INC	2,403	54.33	130,554.99
	MICRON TECHNOLOGY INC	2,510	53.72	134,837.20
	米ドル 小計	66,617		7,491,098.26 (795,929,190)
カナダドル	CAE INC	5,222	33.44	174,623.68
	TORONTO-DOMINION BANK	2,090	67.29	140,636.10
	カナダドル 小計	7,312		315,259.78 (25,003,253)
ユーロ	AIRBUS SE	804	107.72	86,606.88
	SCHNEIDER ELECTRIC SE	1,235	96.40	119,054.00
	SIEMENS AG-REG	1,112	90.08	100,168.96
	MICHELIN (CGDE)-B	433	93.52	40,494.16
	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUITTON SE	227	374.55	85,022.85
	KERRY GROUP PLC-A	920	120.60	110,952.00
	BAWAG GROUP AG	1,854	38.16	70,748.64
	DEUTSCHE BOERSE AG	610	153.45	93,604.50

	VONOVIA SE	1,569	52.94	83,062.86	
	VEOLIA ENVIRONNEMENT	2,830	28.28	80,032.40	
	ユーロ 小計	11,594		869,747.25 (103,560,805)	
英ポンド	ROYAL DUTCH SHELL PLC-B SHS	4,077	16.94	69,096.99	
	CRODA INTERNATIONAL PLC	1,329	46.34	61,585.86	
	DS SMITH PLC	21,822	3.28	71,597.98	
	SPIRAX-SARCO ENGINEERING PLC	1,098	86.55	95,031.90	
	B&M EUROPEAN VALUE RETAIL SA	11,998	3.24	38,981.50	
	ASTRAZENECA PLC	1,525	75.02	114,405.50	
	英ポンド 小計	41,849		450,699.73 (61,998,254)	
スイスフラン	NESTLE SA-REGISTERED	1,415	105.48	149,254.20	
	LONZA GROUP AG-REG	224	406.30	91,011.20	
	NOVARTIS AG-REG SHS	1,236	82.09	101,463.24	
	ZURICH INSURANCE GROUP AG	251	385.00	96,635.00	
	スイスフラン 小計	3,126		438,363.64 (49,193,167)	
スウェーデンクローナ	HEXAGON AB-B SHS	1,683	503.40	847,222.20	
	スウェーデンクローナ 小計	1,683		847,222.20 (9,514,305)	
ノルウェークローネ	MOWI ASA	3,999	194.00	775,806.00	
	ノルウェークローネ 小計	3,999		775,806.00 (8,867,462)	
オーストラリアドル	BHP GROUP LTD	3,023	33.42	101,028.66	
	オーストラリアドル 小計	3,023		101,028.66 (7,092,211)	
香港ドル	BOC HONG KONG HOLDINGS LTD	23,500	26.25	616,875.00	
	AIA GROUP LTD	7,800	77.65	605,670.00	
	香港ドル 小計	31,300		1,222,545.00 (16,712,190)	
シンガポールドル	OVERSEA-CHINESE BANKING CORP	8,900	10.42	92,738.00	
	シンガポールドル 小計	8,900		92,738.00 (7,121,351)	
	合 計	179,403		1,084,992,188 (1,084,992,188)	

(注) 金額欄の()内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数	組入株式時価比率	合計金額に対する比率
米ドル	株式 50銘柄	72.1%	73.4%

カナダドル	株式	2銘柄	2.3%	2.3%
ユーロ	株式	10銘柄	9.4%	9.5%
英ポンド	株式	6銘柄	5.6%	5.7%
スイスフラン	株式	4銘柄	4.5%	4.5%
スウェーデンクローナ	株式	1銘柄	0.9%	0.9%
ノルウェークローネ	株式	1銘柄	0.8%	0.8%
オーストラリアドル	株式	1銘柄	0.6%	0.7%
香港ドル	株式	2銘柄	1.5%	1.5%
シンガポールドル	株式	1銘柄	0.6%	0.7%

(b) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

外国債券マザーファンド（B号）

貸借対照表

	（単位：円）	
	（平成31年 3月 6日現在）	（令和 2年 3月 6日現在）
資産の部		
流動資産		
預金	6,294,956	1,625,677
金銭信託	-	4,463,735
コール・ローン	10,804,008	968,566
国債証券	585,381,161	653,173,292
地方債証券	5,187,552	-
派生商品評価勘定	58,193	1,105,386
未収入金	105,182,933	44,418,319
未収利息	3,998,442	2,812,783
前払費用	1,514,189	1,863,390
流動資産合計	718,421,434	710,431,148
資産合計	718,421,434	710,431,148
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	309,684	1,416,063
未払金	12,690,627	45,893,893
未払解約金	2,872,000	3,768,000
未払利息	10	2
その他未払費用	59	143
流動負債合計	15,872,380	51,078,101
負債合計	15,872,380	51,078,101
純資産の部		
元本等		
元本	264,414,761	237,421,750
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	438,134,293	421,931,297

	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
元本等合計	702,549,054	659,353,047
純資産合計	702,549,054	659,353,047
負債純資産合計	718,421,434	710,431,148

注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成31年 3月 6日現在)	(令和 2年 3月 6日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	264,414,761口	237,421,750口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.6570円 (10,000口当たりの純資産額 26,570円)	1口当たり純資産額 2.7771円 (10,000口当たりの純資産額 27,771円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、国債証券、地方債証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員およびリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	(令和 2年 3月 6日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券（国債証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

(平成31年 3月 6日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建	33,435,921	-	33,263,729	172,192
	米ドル	8,891,687	-	8,874,360	17,327
	カナダドル	5,859,239	-	5,850,600	8,639
	ユーロ	3,866,655	-	3,836,369	30,286
	デンマーククローネ	2,928,080	-	2,876,400	51,680
	オーストラリアドル	11,890,260	-	11,826,000	64,260
	売建	26,664,447	-	26,743,746	79,299
	米ドル	12,179,493	-	12,228,946	49,453
	ユーロ	2,570,221	-	2,524,800	45,421
	スウェーデンクローナ	11,914,733	-	11,990,000	75,267
	合計	60,100,368	-	60,007,475	251,491

(令和 2年 3月 6日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建	85,820,328	-	84,408,770	1,411,558
	米ドル	63,471,083	-	62,403,870	1,067,213
	ユーロ	2,452,105	-	2,381,600	70,505
	英ポンド	2,862,343	-	2,750,200	112,143
	デンマーククローネ	3,877,272	-	3,825,600	51,672
	シンガポールドル	13,157,525	-	13,047,500	110,025
	売建	84,894,959	-	83,794,078	1,100,881
	米ドル	77,950,918	-	76,853,858	1,097,060
	カナダドル	160,248	-	158,580	1,668
	ユーロ	5,949,495	-	5,954,000	4,505
	英ポンド	276,366	-	275,080	1,286
	ノルウェークローネ	115,780	-	114,200	1,580
	ポーランドズロチ	222,584	-	221,200	1,384
	オーストラリアドル	142,132	-	140,380	1,752
	シンガポールドル	77,436	-	76,780	656
	合計		170,715,287	-	168,202,848

(注) 1. 時価の算定方法

(1) 為替予約取引の時価の算定方法について

1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いています。

2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

自 平成31年 3月 7日 至 令和 2年 3月 6日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）

（平成31年 3月 6日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	231,841,096円
同期中における追加設定元本額	224,081,212円
同期中における一部解約元本額	191,507,547円
平成31年 3月 6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	76,845,055円
三井住友・年金プラン50	99,493,323円
三井住友・年金プラン70	64,269,636円
バランスファンドVA（安定運用型）＜適格機関投資家限定＞	23,806,747円
合計	264,414,761円

（令和 2年 3月 6日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	264,414,761円
同期中における追加設定元本額	105,757,718円
同期中における一部解約元本額	132,750,729円
令和 2年 3月 6日現在における元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	67,767,831円
三井住友・年金プラン50	90,501,855円
三井住友・年金プラン70	57,404,206円
バランスファンドVA（安定運用型）＜適格機関投資家限定＞	21,747,858円
合計	237,421,750円

附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	米ドル	US TREASURY N/B 1.75	290,000.00	311,976.55	
		US TREASURY N/B 2.125	320,000.00	325,874.98	
		US TREASURY N/B 2.25	110,000.00	121,189.06	
		US TREASURY N/B 2.375	20,000.00	22,570.31	
		US TREASURY N/B 2.375	40,000.00	47,664.05	
		US TREASURY N/B 2.875	730,000.00	788,057.81	
		US TREASURY N/B 2.875	740,000.00	827,643.74	
		US TREASURY N/B 3	340,000.00	441,468.75	
		US TREASURY N/B 3.75	10,000.00	14,233.59	
		US TREASURY N/B 4.375	70,000.00	105,377.34	
			米ドル 小計		2,670,000.00
カナダドル	CANADA-GOV'T 1	160,000.00	161,929.60		
	カナダドル 小計		160,000.00	161,929.60 (12,842,636)	
メキシコペソ	MEXICAN BONOS 5.75	1,070,000.00	1,043,257.42		
	メキシコペソ 小計		1,070,000.00	1,043,257.42 (5,591,859)	
ユーロ		BELGIAN 0320 4.25	40,000.00	73,688.80	
		DEUTSCHLAND REP 0	30,000.00	32,094.60	
		DEUTSCHLAND REP 0.25	110,000.00	119,791.10	
		DEUTSCHLAND REP 1	230,000.00	249,701.80	
		DEUTSCHLAND REP 2.5	70,000.00	123,313.40	
		FRANCE O.A.T. 0	120,000.00	122,796.00	
		FRANCE O.A.T. 0.5	480,000.00	509,467.20	
		FRANCE O.A.T. 1	30,000.00	33,341.40	
		FRANCE O.A.T. 1.5	20,000.00	26,457.40	
		FRANCE O.A.T. 2.25	20,000.00	21,606.80	
		FRANCE O.A.T. 3.25	30,000.00	52,063.80	
		FRANCE O.A.T. 4	70,000.00	121,749.60	
		SPANISH GOV'T 1.5	170,000.00	188,536.80	
		SPANISH GOV'T 1.6	200,000.00	218,628.00	
		SPANISH GOV'T 2.7	30,000.00	42,775.20	
		SPANISH GOV'T 4.7	60,000.00	106,618.80	
		SPANISH GOV'T 5.85	60,000.00	67,232.40	
	ユーロ 小計		1,770,000.00	2,109,863.10 (251,221,399)	
英ポンド		UK TSY GILT 1	30,000.00	31,010.10	
		UK TSY GILT 1.625	30,000.00	33,539.40	

	UK TSY GILT 1.75	30,000.00	35,052.00	
	UK TSY GILT 1.75	50,000.00	65,789.00	
	UK TSY GILT 3.5	10,000.00	21,089.50	
	UK TSY GILT 3.75	70,000.00	73,766.70	
	UK TSY GILT 4.5	10,000.00	17,649.30	
	英債券 小計	230,000.00	277,896.00 (38,227,373)	
スウェーデンクローナ	SWEDISH GOVRMNT 2.5	160,000.00	185,321.60	
	スウェーデンクローナ 小計	160,000.00	185,321.60 (2,081,161)	
ノルウェークローネ	NORWEGIAN GOV'T 3	120,000.00	130,488.00	
	ノルウェークローネ 小計	120,000.00	130,488.00 (1,491,477)	
ポーランドズロチ	POLAND GOVT BOND 2.5	140,000.00	146,214.60	
	ポーランドズロチ 小計	140,000.00	146,214.60 (4,044,295)	
オーストラリアドル	AUSTRALIAN GOVT. 2.75	150,000.00	173,520.00	
	オーストラリアドル 小計	150,000.00	173,520.00 (12,181,104)	
シンガポールドル	SINGAPORE GOV'T 2.875	70,000.00	79,418.15	
	シンガポールドル 小計	70,000.00	79,418.15 (6,098,519)	
	合計		653,173,292 (653,173,292)	

(注) 金額欄の()内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数	組入債券時価比率	合計金額に対する比率
米ドル	国債証券 10銘柄	48.4%	48.9%
カナダドル	国債証券 1銘柄	1.9%	2.0%
メキシコペソ	国債証券 1銘柄	0.8%	0.9%
ユーロ	国債証券 17銘柄	38.1%	38.5%
英債券	国債証券 7銘柄	5.8%	5.9%
スウェーデンクローナ	国債証券 1銘柄	0.3%	0.3%
ノルウェークローネ	国債証券 1銘柄	0.2%	0.2%
ポーランドズロチ	国債証券 1銘柄	0.6%	0.6%
オーストラリアドル	国債証券 1銘柄	1.8%	1.9%
シンガポールドル	国債証券 1銘柄	0.9%	0.9%

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引に関する注記）」に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

三井住友・年金プラン30

2020年 3月31日現在

資産総額	1,994,260,380円
負債総額	40,779,038円
純資産総額（ - ）	1,953,481,342円
発行済口数	1,407,980,580口
1口当たり純資産額（ / ）	1.3874円
（1万口当たり純資産額）	（13,874円）

三井住友・年金プラン50

2020年 3月31日現在

資産総額	2,615,678,949円
負債総額	55,726,788円
純資産総額（ - ）	2,559,952,161円
発行済口数	1,876,839,160口
1口当たり純資産額（ / ）	1.3640円
（1万口当たり純資産額）	（13,640円）

三井住友・年金プラン70

2020年 3月31日現在

資産総額	1,595,056,058円
負債総額	28,020,591円
純資産総額（ - ）	1,567,035,467円
発行済口数	1,216,424,969口
1口当たり純資産額（ / ）	1.2882円
（1万口当たり純資産額）	（12,882円）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券は発行されません。

イ 名義書換

該当事項はありません。

ロ 受益者名簿

作成しません。

ハ 受益者に対する特典

ありません。

ニ 受益権の譲渡および譲渡制限等

(イ) 受益権の譲渡

- a. 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- b. 上記aの申請のある場合には、上記aの振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記aの振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- c. 上記aの振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(ロ) 受益権の譲渡制限および譲渡の対抗要件

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

ホ 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議の上、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

ヘ 償還金

償還金は、原則として、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に支払います。

ト 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

イ 資本金の額および株式数

	2020年3月31日現在
資本金の額	20億円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	33,870,060株

ロ 最近5年間における資本金の額の増減 該当ありません。

ハ 会社の機構

委託会社の取締役は8名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定し、必要に応じて取締役会長1名を選定することができます。

ニ 投資信託の運用の流れ



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2020年3月31日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

	本数(本)	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	751	6,962,544
単位型株式投資信託	122	555,128
追加型公社債投資信託	1	28,505
単位型公社債投資信託	185	467,368
合計	1,059	8,013,546

3【委託会社等の経理状況】

1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2 当社は、第34期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任あずさ監査法人の監査を受けており、第35期中間会計期間（平成31年4月1日から令和1年9月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任あずさ監査法人の中間監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
(単位：千円)		
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,873,870	13,755,961
顧客分別金信託	20,010	20,011
前払費用	402,249	476,456
未収入金	39,030	64,856
未収委託者報酬	6,332,203	6,963,077
未収運用受託報酬	1,725,215	1,129,548

未収投資助言報酬	316,407	285,668
未収収益	50,321	44,150
その他の流動資産	10,891	31,771
流動資産合計	29,770,200	22,771,504
固定資産		
有形固定資産	1	
建物	185,371	173,517
器具備品	300,694	751,471
有形固定資産合計	486,065	924,988
無形固定資産		
ソフトウェア	409,765	479,867
ソフトウェア仮勘定	5,755	183,528
電話加入権	56	44
商標権	-	60
無形固定資産合計	415,576	663,501
投資その他の資産		
投資有価証券	10,616,594	10,829,628
関係会社株式	10,412,523	10,252,067
長期差入保証金	658,505	2,004,451
長期前払費用	69,423	97,107
会員権	7,819	7,819
繰延税金資産	1,394,447	1,426,381
投資その他の資産合計	23,159,314	24,617,457
固定資産合計	24,060,956	26,205,946
資産合計	53,831,157	48,977,450

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
負債の部		
流動負債		
顧客からの預り金	84	4,534
その他の預り金	92,326	1,480,229
未払金		
未払収益分配金	649	1,122
未払償還金	137,522	137,522
未払手数料	2,783,763	3,246,133
その他未払金	236,739	768,373
未払費用	3,433,641	3,535,589
未払消費税等	547,706	84,966
未払法人税等	1,785,341	670,761
賞与引当金	1,507,256	1,302,052
その他の流動負債	1,408	18,110
流動負債合計	10,526,438	11,249,395
固定負債		
退職給付引当金	3,319,830	3,418,601
賞与引当金	99,721	5,074
その他の固定負債	3,363	5,074
固定負債合計	3,422,915	3,428,751

負債合計	13,949,354	14,678,146
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984
資本剰余金合計	8,628,984	8,628,984
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金	60,000	60,000
別途積立金	1,476,959	1,476,959
繰越利益剰余金	26,561,078	21,255,054
利益剰余金合計	28,382,283	23,076,258
株主資本計	39,011,267	33,705,242
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	870,535	594,061
評価・換算差額等合計	870,535	594,061
純資産合計	39,881,802	34,299,304
負債・純資産合計	53,831,157	48,977,450

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成29年4月1日	(自	平成30年4月1日
	至	平成30年3月31日)	至	平成31年3月31日)
営業収益				
委託者報酬		36,538,981		39,156,499
運用受託報酬		8,362,118		6,277,217
投資助言報酬		1,440,233		1,332,888
その他営業収益				
情報提供コンサルタント				
業務報酬		5,000		-
サービス支援手数料		128,324		182,502
その他		55,820		49,507
営業収益計		46,530,479		46,998,614
営業費用				
支払手数料		16,961,384		18,499,433
広告宣伝費		353,971		361,696
公告費		1,140		125
調査費				
調査費		1,654,233		1,752,905
委託調査費		5,972,473		6,050,441
営業雑経費				
通信費		40,066		46,551
印刷費		339,048		338,465
協会費		-		24,700

諸会費	45,465	23,756
情報機器関連費	2,582,734	2,872,416
販売促進費	34,333	49,118
その他	136,669	148,307
営業費用合計	28,121,520	30,167,918
一般管理費		
給料		
役員報酬	196,529	190,951
給料・手当	6,190,716	6,308,066
賞与	601,375	514,259
賞与引当金繰入額	1,566,810	1,235,936
交際費	25,709	27,802
寄付金	-	82
事務委託費	256,413	286,905
旅費交通費	220,569	228,538
租税公課	282,036	285,369
不動産賃借料	654,286	612,410
退職給付費用	419,884	463,553
固定資産減価償却費	329,756	378,530
諸経費	285,490	290,243
一般管理費合計	11,029,580	10,822,651
営業利益	7,379,378	6,008,044

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)		(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	
営業外収益				
受取配当金	51,335		-	
受取利息	520		623	
時効成立分配金・償還金	2,622		72	
原稿・講演料	894		1,951	
雑収入	10,669		36,408	
営業外収益合計	66,042		39,055	
営業外費用				
為替差損	5,125		15,760	
雑損失	913		7,027	
営業外費用合計	6,038		22,787	
経常利益	7,439,383		6,024,312	
特別利益				
投資有価証券償還益	61,842		289,451	
投資有価証券売却益	30,980		7,247	
過去勤務費用償却益	1	-	79,850	
特別利益合計	92,822		376,549	
特別損失				
固定資産除却損	2	354,695	1,462	
投資有価証券償還損		141,666	13,668	
投資有価証券売却損		9,634	14,605	
関係会社株式評価損	3	-	160,455	
合併関連費用	4	-	187,140	

特別損失合計	505,996	377,331
税引前当期純利益	7,026,209	6,023,530
法人税、住民税及び事業税	2,350,891	1,750,031
法人税等調整額	280,166	90,084
法人税等合計	2,070,725	1,840,116
当期純利益	4,955,483	4,183,413

(3)【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	23,493,074
当期変動額							
剰余金の配当							1,887,480
当期純利益							4,955,483
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	3,068,003
当期末残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	26,561,078

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	25,314,279	35,943,263	327,116	327,116	36,270,379
当期変動額					
剰余金の配当	1,887,480	1,887,480			1,887,480
当期純利益	4,955,483	4,955,483			4,955,483
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)			543,419	543,419	543,419
当期変動額合計	3,068,003	3,068,003	543,419	543,419	3,611,423
当期末残高	28,382,283	39,011,267	870,535	870,535	39,881,802

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
					配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	26,561,078
当期変動額							
剰余金の配当							9,489,438
当期純利益							4,183,413

株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	5,306,024
当期末残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	21,255,054

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	28,382,283	39,011,267	870,535	870,535	39,881,802
当期変動額					
剰余金の配当	9,489,438	9,489,438			9,489,438
当期純利益	4,183,413	4,183,413			4,183,413
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)			276,474	276,474	276,474
当期変動額合計	5,306,024	5,306,024	276,474	276,474	5,582,498
当期末残高	23,076,258	33,705,242	594,061	594,061	34,299,304

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

器具備品 3～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

「税効果会計に係る会計基準」の一部改正（企業会計基準第28号平成30年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」715,988千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,394,447千円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)（評価性引当額の合計額を除く。）に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
建物	312,784千円	350,176千円
器具備品	768,929千円	922,553千円

2 当座借越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。

当事業年度末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
当座借越極度額の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	10,000,000千円	10,000,000千円

3 保証債務

当社は、子会社であるSumitomo Mitsui Asset Management(New York) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、令和5年6月までの賃借料総額の支払保証を行っております。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
Sumitomo Mitsui Asset Management (New York) Inc.	204,923千円	174,854千円

(損益計算書関係)

1 過去勤務費用償却益

過去勤務費用償却益は、退職金規程を変更したことに伴い発生した過去勤務費用の一時処理額であります。

2 固定資産除却損

	前事業年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	当事業年度 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
器具備品	0千円	695千円
ソフトウェア	9,000千円	766千円
ソフトウェア仮勘定	345,695千円	- 千円

3 関係会社株式評価損

関係会社株式評価損は、関連会社の株式について減損処理を適用したことによるものであります。

4 合併関連費用

合併関連費用は、主に目論見書等の一斉改版費用及び当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する業務委託費用であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	-	-	17,640株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,887,480	107,000.00	平成29年 3月31日	平成29年 6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの
平成30年6月26日開催の第33回定時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,822,400	160,000.00	平成30年 3月31日	平成30年 6月27日

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 発行済株式数に関する事項

当社は平成30年11月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	17,622,360株	-	17,640,000株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

当社は平成30年11月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。

当該株式分割は平成30年11月1日を効力発生日としておりますので、平成31年1月31日を基準日とする一株当たり配当額につきましては、株式分割後の株式数を基準に記載しております。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,822,400	160,000.00	平成30年 3月31日	平成30年 6月27日
平成31年2月28日 臨時株主総会	普通株式	6,667,038	377.95	平成31年 1月31日	平成31年 3月22日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの
令和1年6月24日開催の臨時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
令和1年6月24日 臨時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,469,600	140.00	平成31年 3月28日	令和1年 6月25日

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
1年以内	208,187	597,239
1年超	42,916	6,115,662
合計	251,104	6,712,901

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っています。そのため、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない運用を行っています。また、資金調達及びデリバティブ取引は行っていません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

投資有価証券については、主に事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、主に全額出資の子会社の株式及び50%出資した関連会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。また、長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金等であり、差入先の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

投資有価証券、子会社株式及び関連会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

長期差入保証金についても、差入先の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

市場リスクの管理

投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、企画部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格及び業界団体が公表する売買参考統計値等に基づく価額のほか、これらの価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（（注2）参照）。

前事業年度（平成30年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	20,873,870	20,873,870	-
(2)顧客分別金信託	20,010	20,010	-
(3)未収委託者報酬	6,332,203	6,332,203	-
(4)未収運用受託報酬	1,725,215	1,725,215	-
(5)未収投資助言報酬	316,407	316,407	-
(6)投資有価証券 その他有価証券	10,616,296	10,616,296	-
(7)長期差入保証金	658,505	658,505	-
資産計	40,542,507	40,542,507	-
(1)顧客からの預り金	84	84	-
(2)未払手数料	2,783,763	2,783,763	-
負債計	2,783,847	2,783,847	-

当事業年度（平成31年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
----	----------	----	----

(1)現金及び預金	13,755,961	13,755,961	-
(2)顧客分別金信託	20,011	20,011	-
(3)未収委託者報酬	6,963,077	6,963,077	-
(4)未収運用受託報酬	1,129,548	1,129,548	-
(5)未収投資助言報酬	285,668	285,668	-
(6)投資有価証券 その他有価証券	10,829,330	10,829,330	-
(7)長期差入保証金	2,004,451	2,004,451	-
資産計	34,988,051	34,988,051	-
(1)顧客からの預り金	4,534	4,534	-
(2)未払手数料	3,246,133	3,246,133	-
負債計	3,250,667	3,250,667	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬及び(5)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6)投資有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

(7)長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負債

(1)顧客からの預り金及び(2)未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
その他有価証券 非上場株式	298	298
合計	298	298
子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	10,412,523	10,252,067
合計	10,412,523	10,252,067

その他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、「(6)その他有価証券」には含めておりません。

子会社株式及び関連会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	20,873,870	-	-	-
顧客分別金信託	20,010	-	-	-
未収委託者報酬	6,332,203	-	-	-
未収運用受託報酬	1,725,215	-	-	-
未収投資助言報酬	316,407	-	-	-
長期差入保証金	602,360	56,144	-	-
合計	29,870,067	56,144	-	-

当事業年度(平成31年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超

現金及び預金	13,755,961	-	-	-
顧客分別金信託	20,011	-	-	-
未収委託者報酬	6,963,077	-	-	-
未収運用受託報酬	1,129,548	-	-	-
未収投資助言報酬	285,668	-	-	-
長期差入保証金	54,900	1,949,551	-	-
合計	22,209,168	1,949,551	-	-

(有価証券関係)

1. 子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(平成30年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式10,412,523千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成31年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式10,252,067千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

前事業年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	7,366,669	6,046,232	1,320,437
小計	7,366,669	6,046,232	1,320,437
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	3,249,626	3,315,328	65,701
小計	3,249,626	3,315,328	65,701
合計	10,616,296	9,361,560	1,254,735

(注) 非上場株式等(貸借対照表計上額 298千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成31年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	7,545,410	6,613,088	932,322
小計	7,545,410	6,613,088	932,322
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	3,283,920	3,360,000	76,080
小計	3,283,920	3,360,000	76,080
合計	10,829,330	9,973,088	856,242

(注) 非上場株式等(貸借対照表計上額 298千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
532,099	30,980	9,634

当事業年度(自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
728,127	7,247	14,605

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

当事業年度において、有価証券について160,455千円(関係会社株式160,455千円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては子会社株式及び関連会社株式については、当該株式の発行会社の財務状況等を勘案した

上で、回復可能性を検討し、回復可能性のないものについて減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当事業年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,177,131	3,319,830
勤務費用	285,715	267,362
利息費用	2,922	-
数理計算上の差異の発生額	51,212	3,658
退職給付の支払額	94,727	85,082
過去勤務費用の発生額	-	79,850
退職給付債務の期末残高	3,319,830	3,418,601

(2)退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年 3月31日)	当事業年度 (平成31年 3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	3,319,830	3,418,601
未認識数理計算上の差異	-	-
未認識過去勤務費用	-	-
退職給付引当金	3,319,830	3,418,601

(3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当事業年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
勤務費用	285,715	267,362
利息費用	2,922	-
数理計算上の差異の費用処理額	51,212	3,658
過去勤務費用償却益	-	79,850
その他	182,458	199,849
確定給付制度に係る退職給付費用	419,884	383,703

(注) 1.退職金規程を変更したことに伴い、過去勤務費用償却益79,850千円を特別利益に計上しております。

2.その他は、その他の関係会社等からの出向者の年金掛金負担分及び退職給付引当額相当額負担分、退職定年制度適用による割増退職金並びに確定拠出年金への拠出額であります。

(4)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当事業年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
割引率	0.000%	0.000%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度147,195千円、当事業年度156,457千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	1,016,532	1,046,775
賞与引当金	492,056	400,242
調査費	90,509	80,983
未払金	60,851	57,192
未払事業税	102,103	54,797
ソフトウェア償却	11,289	17,501
その他	7,903	82,798
繰延税金資産小計	1,781,245	1,740,292
評価性引当額（注）	2,597	51,729
繰延税金資産合計	1,778,648	1,688,563
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	384,200	262,181
繰延税金負債合計	384,200	262,181
繰延税金資産の純額	1,394,447	1,426,381

（注）評価性引当額が49,131千円増加しております。この増加の内容は、主として関係会社株式評価損に係る評価性引当額を追加的に認識したことに伴うものであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
（調整）		
評価性引当額の増減	-	0.8
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.9
住民税均等割等	0.1	0.1
所得税額控除による税額控除	1.9	1.4
その他	0.1	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.4	30.5

（セグメント情報等）

前事業年度（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	36,538,981	8,362,118	1,440,233	189,145	46,530,479

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	39,156,499	6,277,217	1,332,888	232,009	46,998,614

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
----	------------	-----	-------------	-----------	----------------	-----------	-------	------	----	------

親会社 の 子会社	㈱三井住友 銀行	東京都 千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	2,761,066	未払 手数料	429,436
親会社 の 子会社	SMBC日興 証券㈱	東京都 千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,685,815	未払 手数料	953,752

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金、出資金 又は基金	事業の 内容又 は職業	議決権等の 所有(被所 有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社 の 子会社	㈱三井住友 銀行	東京都 千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	2,499,836	未払 手数料	399,447
親会社 の 子会社	SMBC日興 証券㈱	東京都 千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,789,062	未払 手数料	1,154,875

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当事業年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
1株当たり純資産額	2,260.87円	1,944.40円
1株当たり当期純利益金額	280.92円	237.15円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 当社は、平成30年11月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当事業年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	4,955,483	4,183,413
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	4,955,483	4,183,413
期中平均株式数(株)	17,640,000	17,640,000

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する主要株主間での基本合意について

平成30年5月11日付で当社及び大和住銀投信投資顧問株式会社の主要株主である株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社大和証券グループ本社、三井住友海上火災保険株式会社及び住友生命保険相互会社が、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する基本合意書を締結しました。

当事業年度(自平成30年4月1日至平成31年3月31日)

取得による企業結合

当社は、平成30年9月28日開催の当社取締役会において、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との間で合併契約を締結することについて決議し、同日付で締結しました。本合併契約に基づき、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社は、平成31年4月1日付で合併いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 大和住銀投信投資顧問株式会社
事業の内容 投資運用業、投資助言・代理業等

(2) 企業結合を行う主な理由

資産運用ビジネスはグローバルに成長拡大しており、お客さまから求められる運用力やサービスはますます高度化しております。本件合併は、このようなお客さまからのニーズに対応するために、両運用会社の持つ強み・ノウハウを結集した、フィデューシャリー・デューティーに基づく最高品質の運用パフォーマンスとサービスを提供する資産運用会社の実現を図るものであります。

(3) 企業結合日

平成31年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、大和住銀投信投資顧問株式会社を消滅会社とする吸収合併方式であります。

(5) 結合後企業の名称

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

(6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)の考え方に基づき、当社を取得企業としております。

2. 合併比率及びその算定方法並びに交付した株式数

(1) 合併比率

大和住銀投信投資顧問株式会社の普通株式1株に対し、当社の普通株式4.2156株を割当て交付いたしました。

(2) 合併比率の算定方法

当社はEYトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社を、大和住銀投信投資顧問株式会社はPwCアドバイザー合同会社を、合併比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定し、各第三者算定機関による算定結果を参考に、両社の財務の状況、資産の状況、将来の見通し等の要因を総合的に勘案し、合併比率について慎重に協議を重ねた結果、合併比率が妥当であると判断し、合意に至ったものであります。

(3) 交付した株式数

普通株式：16,230,060株

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

デューデリジェンス費用13,700千円

4. 取得原価の配分に関する事項

現時点では確定しておりません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

第35期中間会計期間
(令和1年9月30日)

資産の部		
流動資産		
現金及び預金		31,390,396
顧客分別金信託		120,015
前払費用		518,120
未収委託者報酬		9,224,857
未収運用受託報酬		2,518,829
未収投資助言報酬		300,807
未収収益		49,098
その他		251,169
流動資産合計		44,373,295
固定資産		
有形固定資産	1	1,165,925
無形固定資産		
のれん		35,720,818
顧客関連資産		18,841,803
その他		1,287,309
無形固定資産合計		55,849,931
投資その他の資産		
投資有価証券		19,980,993
関係会社株式		11,208,183
その他		2,725,272
貸倒引当金		20,750
投資その他の資産合計		33,893,699
固定資産合計		90,909,555
資産合計		135,282,851
負債の部		
流動負債		
リース債務		1,568
顧客からの預り金		3,725
その他の預り金		117,464
未払金		4,558,058
未払費用		4,003,445
未払法人税等		1,108,639
前受収益		37,155
賞与引当金		1,620,047
資産除去債務		248,260
その他	2	262,615
流動負債合計		11,960,980
固定負債		
リース債務		1,045
退職給付引当金		5,317,984
賞与引当金		2,537
その他		218,125
繰延税金負債		3,515,376
固定負債合計		9,055,069
負債合計		21,016,049
純資産の部		
株主資本		
資本金		2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		8,628,984
その他資本剰余金		81,927,000
資本剰余金合計		90,555,984
利益剰余金		
利益準備金		284,245

その他利益剰余金	
配当準備積立金	60,000
別途積立金	1,476,959
繰越利益剰余金	19,373,541
利益剰余金合計	21,194,745
株主資本合計	113,750,729
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	516,072
評価・換算差額等合計	516,072
純資産合計	114,266,801
負債純資産合計	135,282,851

(2)中間損益計算書

(単位：千円)

		第35期中間会計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和1年9月30日)	
営業収益			
委託者報酬			28,593,570
運用受託報酬			4,633,054
投資助言報酬			661,581
その他の営業収益			118,885
営業収益計			34,007,092
営業費用			21,567,446
一般管理費	1		11,224,956
営業利益			1,214,689
営業外収益	2		258,897
営業外費用	3		41,920
経常利益			1,431,666
特別損失	4		11,471
税引前中間純利益			1,420,194
法人税、住民税及び事業税			950,377
法人税等調整額			118,269
法人税等合計			832,107
中間純利益			588,086

(3)中間株主資本等変動計算書

第35期中間会計期間（自 平成31年4月1日 至 令和1年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	-	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	21,255,054
当中間期変動額								
剰余金の配当								2,469,600
中間純利益								588,086
合併による増加			81,927,000	81,927,000				

株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	-	-	81,927,000	81,927,000	-	-	-	1,881,513
当中間期末残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	19,373,541

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	23,076,258	33,705,242	594,061	594,061	34,299,304
当中間期変動額					
剰余金の配当	2,469,600	2,469,600			2,469,600
中間純利益	588,086	588,086			588,086
合併による増加		81,927,000			81,927,000
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）			77,989	77,989	77,989
当中間期変動額合計	1,881,513	80,045,486	77,989	77,989	79,967,497
当中間期末残高	21,194,745	113,750,729	516,072	516,072	114,266,801

注記事項

（重要な会計方針）

1．資産の評価基準及び評価方法

(1)有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2．固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。但し、建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2～50年

器具備品 3～20年

(2)無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

のれん 14年

顧客関連資産 6～19年

ソフトウェア（自社利用分） 5年（社内における利用可能期間）

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3．引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。

(3)退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間にお

いて発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(中間損益計算書)

当社は当中間会計期間より、「投資有価証券売却益」及び「投資有価証券償還益」を「特別利益」ではなく「営業外収益」として、「投資有価証券売却損」及び「投資有価証券償還損」を「特別損失」ではなく「営業外費用」として表示する方法に変更しております。これは、合併を契機に検討した結果、投資有価証券の売却及び償還の大勢が自社設定投信等の処分によるものであり毎期経常的に発生するものとして、当中間会計期間から取引実態に沿った表示へと変更したものであります。

この結果、従来の方法に比較して、「特別利益」は23,677千円減少し、「営業外収益」は同額増加しており、「特別損失」は30,023千円減少し、「営業外費用」は同額増加しております。また、「経常利益」は6,346千円減少しております。

(中間貸借対照表関係)

第35期中間会計期間 (令和1年9月30日)	
1.有形固定資産の減価償却累計額	1,557,220千円
2.消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債のその他に含めて表示しております。
3.当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。当中間会計期間末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。	
当座借越極度額の総額	10,000,000千円
借入実行残高	-
差引額	10,000,000千円
4.当社は、子会社であるSumitomo Mitsui DS Asset Management(USA) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、令和5年6月までの賃借料総額150,945千円の支払保証を行っております。	

(中間損益計算書関係)

第35期中間会計期間 (自平成31年4月1日至令和1年9月30日)	
1.のれん償却費	1,322,993千円
減価償却実施額	
有形固定資産	287,191千円
無形固定資産	1,187,351千円
2.営業外収益のうち主要なもの	
受取配当金	209,815千円
投資有価証券償還益	5,197千円
投資有価証券売却益	18,480千円
3.営業外費用のうち主要なもの	
為替差損	11,810千円
投資有価証券償還損	22,585千円
投資有価証券売却損	7,437千円
4.特別損失のうち主要なもの	
合併関連費用	6,094千円
合併関連費用は、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する業務委託費用等であります。	
固定資産除却損	5,377千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

第35期中間会計期間(自平成31年4月1日 至 令和1年9月30日)

1. 発行済株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
普通株式	17,640,000株	16,230,060株	-	33,870,060株

(変動事由の概要)

合併に伴う普通株式の発行による増加 16,230,060株

2. 剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
令和1年6月24日 臨時株主総会	普通株式	2,469,600	140.00	平成31年 3月28日	令和1年 6月25日

(リース取引関係)

第35期中間会計期間 (自平成31年4月1日 至 令和1年9月30日)	
1. オペレーティング・リース取引 (借主側)	
未経過リース料(解約不能のもの)	
1年以内	1,675,025千円
1年超	6,419,696千円
合計	8,094,721千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の時価等に関する事項

第35期中間会計期間(令和1年9月30日)

令和1年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注2)参照)。

(単位:千円)

区分	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	31,390,396	31,390,396	-
(2)顧客分別金信託	120,015	120,015	-
(3)未収委託者報酬	9,224,857	9,224,857	-
(4)未収運用受託報酬	2,518,829	2,518,829	-
(5)未収投資助言報酬	300,807	300,807	-
(6)投資有価証券			
その他有価証券	19,935,624	19,935,624	-
(7)投資その他の資産			
長期差入保証金	2,528,392	2,528,392	-
資産計	66,018,923	66,018,923	-
(1)顧客からの預り金	3,725	3,725	-
(2)未払金			
未払手数料	4,192,554	4,192,554	-
負債計	4,196,280	4,196,280	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬、及び(5)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6)投資有価証券

その他有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(7) 投資その他の資産

長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 顧客からの預り金、及び(2) 未払金 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額
その他有価証券 非上場株式	45,369
合計	45,369
子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	11,208,183
合計	11,208,183

その他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、「(6) その他有価証券」には含めておりません。

子会社株式及び関連会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしておりません。

(有価証券関係)

第35期中間会計期間(令和1年9月30日)

1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(中間貸借対照表計上額 11,208,183千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

2. その他有価証券

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	12,082,796	11,176,487	906,308
小計	12,082,796	11,176,487	906,308
(2) 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	7,852,827	8,004,506	151,679
小計	7,852,827	8,004,506	151,679
合計	19,935,624	19,180,994	754,629

(注) 非上場株式等(中間貸借対照表計上額 45,369千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、平成30年9月28日開催の当社取締役会において、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との間で合併契約を締結することについて決議し、同日付で締結しました。本合併契約に基づき、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社は、平成31年4月1日付で合併いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 大和住銀投信投資顧問株式会社
事業の内容 投資運用業、投資助言・代理業等

(2) 企業結合を行った主な理由

資産運用ビジネスはグローバルに成長拡大しており、お客さまから求められる運用力やサービスはますます高度化しております。本件合併は、このようなお客さまからのニーズに対応するために、両運用会社の持つ強み・ノウハウを結集した、フィデューシャリー・デューティーに基づく最高品質の運用パフォーマンスとサービスを提供する資産運用会社の実現を図るものであります。

(3) 企業結合日

平成31年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、大和住銀投信投資顧問株式会社を消滅会社とする吸収合併方式であります。

(5) 結合後企業の名称

三井住友D Sアセットマネジメント株式会社

(6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成31年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日)の考え方に基づき、当社を取得企業としております。

2. 中間財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成31年4月1日から令和1年9月30日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	企業結合日に交付した当社の普通株式の時価	81,927,000千円
取得原価		81,927,000千円

4. 合併比率及びその算定方法並びに交付した株式数

(1) 合併比率

大和住銀投信投資顧問株式会社の普通株式1株に対し、当社の普通株式4.2156株を割当て交付いたしました。

(2) 合併比率の算定方法

当社はE Yトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社を、大和住銀投信投資顧問株式会社はP w Cアドバイザー合同会社を、合併比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定し、各第三者算定機関による算定結果を参考に、両社の財務の状況、資産の状況、将来の見通し等の要因を総合的に勘案し、合併比率について慎重に協議を重ねた結果、合併比率が妥当であると判断し、合意に至ったものであります。

(3) 交付した株式数

普通株式：16,230,060株

5. 主要な取得関連費用の内容及び金額

業務委託費用及びデューデリジェンス費用等 37,723千円

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

37,043,811千円

(2) 発生原因

被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。

(3) 償却方法及び償却期間

14年にわたる均等償却

7. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	24,546,329千円
固定資産	34,001,531千円
資産合計	58,547,860千円
流動負債	5,406,939千円
固定負債	8,257,731千円
負債合計	13,664,671千円

（資産除去債務関係）

当該資産除去債務の総額の増減

（単位：千円）

当中間会計期間 （自 平成31年4月1日 至 令和1年9月30日）	
期首残高	-
合併による増加額（注）	248,260
中間期末残高	248,260

（注）合併に伴い主として霞ヶ関オフィスの不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等について、資産除去債務の金額を計上しております。

なお、割引計算による金額の重要性が乏しいことから、割引前の見積り額を計上しております。

（セグメント情報等）

第35期中間会計期間（自 平成31年4月1日 至 令和1年9月30日）

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への 営業収益	28,593,570	4,633,054	661,581	118,885	34,007,092

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

第35期中間会計期間 （自 平成31年4月1日 至 令和1年9月30日）	
1株当たり純資産額	3,373円68銭
1株当たり中間純利益	17円36銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

（参考）大和住銀投信投資顧問株式会社の経理状況

当該(参考)において、大和住銀投信投資顧問株式会社を「委託会社」または「当社」といいます。

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号。)により作成しております。
2. 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第47期事業年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

令和1年6月14日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯田 浩 司	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	佐藤 榮 裕	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社（旧会社名 大和住銀投信投資顧問株式会社）の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第47期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社（旧会社名 大和住銀投信投資顧問株式会社）の平成31年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社と三井住友アセットマネジメント株式会社は、平成31年4月1日付で合併した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注1） 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2） XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

（1）貸借対照表

（単位：千円）

	第46期 （平成30年3月31日）	第47期 （平成31年3月31日）
資産の部		

流動資産			
現金・預金		21,360,895	20,475,527
前払費用		204,460	230,059
未収入金		12,823	4,542
未収委託者報酬		3,363,312	2,923,589
未収運用受託報酬		1,198,432	870,546
未収収益		41,310	38,738
その他		7,553	3,324
流動資産計		26,188,788	24,546,329
固定資産			
有形固定資産			
建物	1	75,557	225,975
器具備品	1	122,169	95,404
土地		710	710
リース資産	1	7,275	8,108
有形固定資産計		205,712	330,198
無形固定資産			
ソフトウェア		73,887	159,087
ソフトウェア仮勘定		-	6,115
電話加入権		12,706	12,706
無形固定資産計		86,593	177,909
投資その他の資産			
投資有価証券		10,257,600	11,025,039
関係会社株式		956,115	956,115
従業員長期貸付金		1,170	-
長期差入保証金		534,699	534,270
出資金		82,660	82,660
繰延税金資産		1,041,251	1,009,250
その他		-	8,397
貸倒引当金		20,750	20,750
投資その他の資産計		12,852,746	13,594,982
固定資産計		13,145,052	14,103,090
資産合計		39,333,840	38,649,419

(単位：千円)

	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	3,143	3,583
未払金	29,207	1,555,486
未払手数料	1,434,393	1,222,461
未払費用	1,287,722	1,203,269
未払法人税等	1,397,293	264,304
未払消費税等	135,042	48,437
賞与引当金	1,263,100	1,007,040
役員賞与引当金	85,600	72,900
その他	23,128	29,455
流動負債計	5,658,632	5,406,939
固定負債		
リース債務	4,698	5,173

退職給付引当金	1,540,203	1,707,062
役員退職慰労引当金	88,050	-
長期未払金	-	204,333
資産除去債務	-	248,260
固定負債計	1,632,952	2,164,829
負債合計	7,291,585	7,571,769

(単位：千円)

	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	28,387,042	27,516,774
利益剰余金合計	29,830,773	28,960,505
株主資本合計	31,987,042	31,116,774
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55,213	39,124
評価・換算差額等合計	55,213	39,124
純資産合計	32,042,255	31,077,650
負債純資産合計	39,333,840	38,649,419

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	5,111,757	4,252,374
委託者報酬	26,383,145	24,415,734
その他営業収益	82,997	66,957
営業収益計	31,577,899	28,735,066
営業費用		
支払手数料	11,900,832	10,708,502
広告宣伝費	93,131	196,206
公告費	-	293
調査費		
調査費	1,637,364	2,076,042
委託調査費	2,959,680	3,032,753
委託計算費	79,120	77,597
営業雑経費		
通信費	42,497	38,715
印刷費	517,371	507,540

協会費	24,374	24,325
諸会費	3,778	1,994
その他	122,930	63,596
営業費用計	17,381,079	16,727,567
一般管理費		
給料		
役員報酬	218,127	217,030
給料・手当	2,809,008	3,002,836
賞与	86,028	48,878
退職金	9,864	2,855
福利厚生費	647,269	638,399
交際費	29,121	38,883
旅費交通費	159,224	153,694
租税公課	199,255	160,817
不動産賃借料	622,807	639,392
退職給付費用	219,724	324,082
固定資産減価償却費	71,624	141,154
賞与引当金繰入額	1,263,100	1,007,040
役員退職慰労引当金繰入額	36,130	102,860
役員賞与引当金繰入額	85,500	72,900
諸経費	901,001	1,011,941
一般管理費計	7,357,787	7,562,768
営業利益	6,839,032	4,444,730
営業外収益		
受取配当金	23,350	35,946
受取利息	199	178
投資有価証券売却益	6,350	45,345
その他	2,831	10,431
営業外収益計	32,732	91,902
営業外費用		
投資有価証券売却損	5,000	4,735
解約違約金	-	982
為替差損	1,784	828
その他	0	410
営業外費用計	6,784	6,956
経常利益	6,864,980	4,529,676
特別損失		
合併関連費用	2	179,376
固定資産除却損	-	4,121
特別損失計	-	183,498
税引前当期純利益	6,864,980	4,346,177
法人税、住民税及び事業税	2,242,775	1,339,010
法人税等調整額	78,014	73,635
法人税等合計	2,164,761	1,412,646
当期純利益	4,700,218	2,933,531

(3) 株主資本等変動計算書

第46期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		利益剰余金
			資本剰余金	その他利益剰余金

		資本準備金	合計	利益準備金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	26,100,773
当期変動額						
剰余金の配当						2,413,950
当期純利益						4,700,218
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,286,268
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	28,387,042

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
利益剰余金 合計					
当期首残高	27,544,504	29,700,773	37,917	37,917	29,738,691
当期変動額					
剰余金の配当	2,413,950	2,413,950			2,413,950
当期純利益	4,700,218	4,700,218			4,700,218
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			17,295	17,295	17,295
当期変動額合計	2,286,268	2,286,268	17,295	17,295	2,303,564
当期末残高	29,830,773	31,987,042	55,213	55,213	32,042,255

第47期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	繰越利益剰余金
				別途積立金		
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	28,387,042
当期変動額						
剰余金の配当						3,803,800
当期純利益						2,933,531
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	870,268
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	27,516,774

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
利益剰余金 合計					
当期首残高	29,830,773	31,987,042	55,213	55,213	32,042,255
当期変動額					
剰余金の配当	3,803,800	3,803,800			3,803,800
当期純利益	2,933,531	2,933,531			2,933,531

株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)			94,337	94,337	94,337
当期変動額合計	870,268	870,268	94,337	94,337	964,605
当期末残高	28,960,505	31,116,774	39,124	39,124	31,077,650

注記事項

(重要な会計方針)

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) その他有価証券</p> <p>時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は総平均法により算出し、評価差額は全部純資産直入法により処理しております。)を採用しております。</p> <p>時価のないもの 総平均法による原価法を採用しております。</p>
<p>2. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 2～30年 器具備品 4～15年</p> <p>(会計上の見積りの変更) 当事業年度において、当社と三井住友アセットマネジメント株式会社(以下「SMAM」)との間で合併契約を締結したことに伴い、将来利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ15,534千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p>
<p>3. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づき事業年度末における要支給額を計上しております。</p>

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」504,497千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,041,251千円に含めて表示しております。

(追加情報)

当社は、平成31年3月22日開催の臨時株主総会において、退任となる取締役及び監査役に対して、在任中の労に報いるため、当社所定の基準による相当額の範囲内で役員退職慰労金を支給することを決議しました。

これに伴い、当事業年度において役員退職慰労引当金184,610千円を長期未払金に振り替えております。

(貸借対照表関係)

第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額	1.有形固定資産の減価償却累計額
建物 465,964千円	建物 556,889千円
器具備品 266,621千円	器具備品 297,262千円
リース資産 8,719千円	リース資産 12,584千円

(損益計算書関係)

第46期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	第47期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
-	2. 合併関連費用は、主に目論見書等の一斉改版費用及び当社とS M A Mとの合併に関する業務委託費用であります。

(株主資本等変動計算書関係)

第46期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

(単位：千株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,413,950	627	平成29年3月31日	平成29年6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
----	-------	----------------	-----------	---------------------	-----	-------

平成30年6月22日 定時株主総会	普通 株式	2,348,500	利益 剰余金	610	平成30年3月31日	平成30年6月23日
----------------------	----------	-----------	-----------	-----	------------	------------

第47期(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

(単位:千株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,348,500	610	平成30年3月31日	平成30年6月23日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額 (千円)	配当の 原資	1株当た り配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成31年3月22日 臨時株主総会	普通 株式	1,455,300	利益 剰余金	378	平成31年3月31日	令和1年6月25日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。

その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

主たる営業債権は、投資運用業等より発生する未収委託者報酬、未収運用受託報酬であります。

これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどが信託財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

未収入金は、当社より他社へ出向している従業員給与等であり、1年以内の債権であります。

投資有価証券は、その大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金であり、差入先の信用リスクに晒されております。

未払手数料は、投資信託の販売に係る支払手数料であります。また、未払費用は、投資信託の運用に係る再委託手数料、及び業務委託関連費用であります。

これらの債務は、全て1年以内の債務であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

なお、デリバティブ取引については行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません(注2)を参照ください)。

第46期(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金・預金	21,360,895	21,360,895	-
(2)未収委託者報酬	3,363,312	3,363,312	-
(3)未収運用受託報酬	1,198,432	1,198,432	-
(4)未収入金	12,823	12,823	-
(5)投資有価証券 その他有価証券	10,206,465	10,206,465	-
資産計	36,141,929	36,141,929	-
(1)未払手数料	1,434,393	1,434,393	-
(2)未払費用(*)	959,074	959,074	-
負債計	2,393,468	2,393,468	-

(*)金融商品に該当するものを表示しております。

第47期(平成31年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金・預金	20,475,527	20,475,527	-
(2)未収委託者報酬	2,923,589	2,923,589	-
(3)未収運用受託報酬	870,546	870,546	-
(4)未収入金	4,542	4,542	-
(5)投資有価証券 その他有価証券	10,979,968	10,979,968	-
(6)長期差入保証金	524,592	524,592	-
資産計	35,778,767	35,778,767	-
(1)未払手数料	1,222,461	1,222,461	-
(2)未払費用(*)	807,875	807,875	-
負債計	2,030,337	2,030,337	-

(*)金融商品に該当するものを表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

- (1)現金・預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収運用受託報酬及び(4)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (5)投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

- (6)長期差入保証金

敷金の性質及び貸借契約の期間から、時価は当該帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 未払手数料、及び(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	第46期（平成30年3月31日）	第47期（平成31年3月31日）
(1) その他有価証券 非上場株式	51,135	45,071
(2) 子会社株式 非上場株式	956,115	956,115
(3) 長期差入保証金	534,699	9,677

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。このため、(1) その他有価証券の非上場株式については2.(5) 投資有価証券には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日以後の償還予定額

第46期（平成30年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	21,360,895	-	-	-
未収委託者報酬	3,363,312	-	-	-
未収運用受託報酬	1,198,432	-	-	-
未収入金	12,823	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	1,923,400	373,466	657,576	-
合計	27,858,863	373,466	657,576	-

第47期（平成31年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	20,475,527	-	-	-
未収委託者報酬	2,923,589	-	-	-
未収運用受託報酬	870,546	-	-	-
未収入金	4,542	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	151,249	2,135,802	761,441	-
長期差入保証金	-	524,592	-	-
合計	24,425,455	2,660,395	761,441	-

(有価証券関係)

1. 子会社株式

第46期（平成30年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 956,115千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

第47期（平成31年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額、関係会社株式 956,115千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

第46期（平成30年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの その他 証券投資信託の受益証券	2,522,495	2,276,821	245,674
小計	2,522,495	2,276,821	245,674
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの その他 証券投資信託の受益証券	7,683,969	7,850,063	166,093
小計	7,683,969	7,850,063	166,093
合計	10,206,465	10,126,884	79,580

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 51,135千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第47期（平成31年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの その他 証券投資信託の受益証券	2,207,351	1,967,041	240,309
小計	2,207,351	1,967,041	240,309
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの その他 証券投資信託の受益証券	8,772,616	9,069,317	296,700
小計	8,772,616	9,069,317	296,700
合計	10,979,968	11,036,359	56,391

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 45,071千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券

第46期（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	398,350	6,350	5,000

第47期（自平成30年4月1日 至平成31年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	1,433,609	45,345	4,735

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を採用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	第46期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	第47期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	1,482,500	1,540,203
退職給付費用	147,235	248,717
退職給付の支払額	105,520	61,499
その他	15,987	20,359
退職給付引当金の期末残高	1,540,203	1,707,062

(注)前事業年度のその他は、転籍者の退職給付引当金受入れ額であります。

当事業年度のその他は、主に長期未払金への振り替えであります。

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	-	-
年金資産	-	-
	-	-
非積立型制度の退職給付債務	1,540,203	1,707,062
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,540,203	1,707,062
退職給付引当金	1,540,203	1,707,062
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,540,203	1,707,062

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 第46期 147,235千円 第47期 248,717千円

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、第46期は72,489千円、第47期は75,365千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	71,030	23,058
賞与引当金	386,761	308,355
社会保険料	30,549	27,751
未払事業所税	4,247	4,370
退職給付引当金	471,610	522,702
資産除去債務	-	77,318
投資有価証券	67,546	65,422
ゴルフ会員権	11,000	11,000
役員退職慰労引当金	26,961	-
その他有価証券評価差額金	-	17,266
その他	74,458	83,141
繰延税金資産小計	1,144,165	1,140,388
評価性引当額	78,546	76,422
繰延税金資産合計	1,065,618	1,063,965

繰延税金負債		
建物	-	54,715
その他有価証券評価差額金	24,367	-
繰延税金負債合計	24,367	54,715
繰延税金資産の純額	1,041,251	1,009,250

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
法定実効税率	-	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	0.80%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.09%
特定外国子会社等課税対象金額	-	1.99%
税額控除	-	0.64%
その他	-	0.36%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	32.50%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

主として本社の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

当該契約に基づく退去予定期限までの期間を使用見込期間と見積り、資産除去債務の金額を計算しております。なお、割引計算による金額の重要性が乏しいことから、割引前の見積り額を計上しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度において、主として本社の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等について合理的な見積りが可能となったことから、「(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法」に記載の算定方法に則り、資産除去債務の金額を計算しております。資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

(単位：千円)

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
期首残高	-	-
見積りの変更による増加額	-	248,260
期末残高	-	248,260

(セグメント情報等)

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第46期(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	26,383,145	5,111,757	82,997	31,577,899

2.地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3.主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

第47期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1.製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	24,415,734	4,252,374	66,957	28,735,066

2.地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3.主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者との取引)

第46期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	大和証券株式 会社	東京 都 千代 田区	1,000	証券業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	3,987,525	未払 手数料 料	573,578
その他 の関係 会社の 子会社	株式 会社 三井 住友 銀行	東京 都 千代 田区	17,709	銀行業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	1,969,101	未払 手数料 料	273,241

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

第47期(自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他 の関係 会社の 子会社	大和証券株式 会社	東京 都 千代 田区	1,000	証券業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	4,328,153	未払 手数料 料	540,879
その他 の関係 会社の 子会社	株式 会社 三井 住友 銀行	東京 都 千代 田区	17,709	銀行業	-	当社投資信 託に係る事 務代行の委 託等	投資信託に 係る事務代 行手数料の 支払 1	1,465,685	未払 手数料 料	228,197

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

(1株当たり情報)

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
1株当たり純資産額	8,322円66銭	8,072円12銭
1株当たり当期純利益金額	1,220円84銭	761円96銭

(注)潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たりの当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
当期純利益(千円)	4,700,218	2,933,531
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	4,700,218	2,933,531
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850	3,850

(重要な後発事象)

当社は、平成30年9月28日付で締結した、S M A Mとの合併契約書に基づき、当社を消滅会社とし、S M A Mを存続会社とする吸収合併方式により、平成31年4月1日付で合併いたしました。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- イ 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ロ 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ハ 通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ニ 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ホ 上記ハ、ニに掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】**イ 定款の変更、その他の重要事項****(イ) 定款の変更**

- a. 2019年4月1日付で、取締役の員数の上限を変更する等の定款の変更を行いました。
- b. 2020年1月24日付で、総則の「目的」に関する事項の定款の変更を行いました。

(ロ) その他の重要事項

三井住友アセットマネジメント株式会社は、2019年4月1日に大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に変更しました。

- ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実
該当ありません。

第2【その他の関係法人の概況】**1【名称、資本金の額及び事業の内容】****イ 受託会社**

- (イ) 名称 三井住友信託銀行株式会社
- (ロ) 資本金の額 342,037百万円(2019年9月末現在)

- (八) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

〔参考情報：再信託受託会社の概要〕

- ・ 名称 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・ 資本金の額 51,000百万円(2019年9月末現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

*日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、関係当局の許認可等を前提に2020年7月27日に資産管理サービス信託銀行株式会社およびJTCホールディングス株式会社と合併し、株式会社日本カストディ銀行に商号を変更する予定です。

□ 販売会社

- (イ) 名称 住友生命保険相互会社
- (ロ) 資本金の額 639,000百万円(2019年9月末現在の基金および基金償却積立金の合計額を記載しております。)
- (ハ) 事業の内容 保険業法に基づき、生命保険業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

イ 受託会社

信託契約の受託会社であり、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

ロ 販売会社

委託会社との間で締結された販売契約に基づき、日本における当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書(目論見書)の提供、一部解約の実行の請求の受け付け、収益分配金、償還金の支払事務等を行います。

3【資本関係】

(持株比率5%以上を記載しています。)

販売会社である住友生命保険相互会社は、委託会社株式を10.4%保有しています。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2019年 4月 1日	有価証券届出書の訂正届出書
2019年 6月 3日	有価証券届出書
2019年 6月 3日	有価証券報告書
2019年12月 3日	有価証券届出書
2019年12月 3日	半期報告書

独立監査人の監査報告書

令和1年6月14日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小澤 陽 一 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社（旧会社名 三井住友アセットマネジメント株式会社）の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社（旧会社名 三井住友アセットマネジメント株式会社）の平成31年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社と大和住銀投信投資顧問株式会社は、平成31年4月1日付で合併した。当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年4月14日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 陽一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン30の平成31年3月7日から令和2年3月6日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・年金プラン30の令和2年3月6日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年4月14日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 陽 一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン50の平成31年3月7日から令和2年3月6日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・年金プラン50の令和2年3月6日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年4月14日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 陽 一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・年金プラン70の平成31年3月7日から令和2年3月6日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・年金プラン70の令和2年3月6日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

令和1年11月22日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 羽 太 典 明 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅 野 雅 子 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 栄 裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの第35期事業年度の中間会計期間（平成31年4月1日から令和1年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社の令和1年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成31年4月1日から令和1年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。